

100年後に残る、工芸のために
オール京都、工芸の祭典

工 21世紀鷹峯フォーラム

第一回

京都
Kyoto
ガイドブック

二〇一五年

十一月三十日(月)―十二月六日(日)

工芸を「見る」「学ぶ」「考える」、
そして「体感する」

参加20団体による25のアクティビティー、すべてを網羅

04	――	「工芸」と向き合い、顔を合わせ、100年先を考える機会に	柳原正樹
04	――	京都から始まる、工芸のオールジャパン連携へ	林田英樹
08	――	概要	
10	――	イベントカレンダー	
12	――	詳細地図	
13	――	鷹峯日替わりmap	
27	――	ポイント「工芸」と「21世紀鷹峯フォーラム」	

イベント紹介	28	――	01 第4回コレクション展 特集展示:京都の工芸
	30	――	02 次世代工芸展
		――	03 次世代工芸展審査結果発表＋ギャラリートーク
	31	――	04 よそおいの細密工芸
	32	――	05 「工芸とデザイン―伝統の再解釈、手仕事の現在地―」＋ 「京都の伝統産業実習報告展」
	33	――	07 京の食文化と工芸―私のこだわり
	34	――	06 私の好きな工芸
	36	――	08 京のわざ、日本のわざ フィルムで見る京の伝統工芸
	37	――	09 こども未来工芸ワークショップ―うるし編―
	38	――	10 KYOTO DESIGN×CRAFTS FAIR
	39	――	11 京都市立芸術大学トークセッション「次世代の食と工芸」
	40	――	12 「正倉院宝物復元プロジェクト」作品展示&パネル展示
	41	――	15 トークセッション「工芸とデザイン」
	42	――	13 16 職人が案内する工房見学・体験ツアー
	44	――	14 絶滅危惧の素材と道具
	46	――	17 つくるフォーラム 公募説明会
	48	――	18 特別講演会「愛しむ工芸 詠えの歴史」
	49	――	19 上賀茂神社特別参拝
		――	20 工芸における琳派コードを読み解く トークセッションin上賀茂神社
	50	――	21 「正倉院宝物復元プロジェクト」トークセッション
	51	――	22 鷹峯ナイト
	52	――	23 2015年度 21世紀鷹峯フォーラム 第1回in京都 メインシンポジウム 「100年後に残る工芸のために」
	54	――	「工芸」コレクションが充実 美術館・博物館案内
	61	――	索引

■「工芸」と向き合い、 顔を合わせ、 100年先を考える機会に

「100年後に残る工芸のために」
普及啓発実行委員会 会長

やなぎ はら まさ き
柳原正樹
[京都国立近代美術館 館長]

琳派400年、2015年から

本年は、京都・鷹峯に光悦村が開かれ400年の節目にあたります。元和元（1615）年、書家にして陶芸にも秀でた本阿弥光悦が徳川家康から京都の北にある鷹峯の地を拝領し、芸術村「光悦村」を開き、光悦と俵屋宗達によって琳派は動き始めました。豊かな装飾性と秀でた意匠は、尾形光琳、酒井抱一、鈴木其一と受け継がれ、現代にもなお生き続けているのはご承知の通りです。この2015年は「琳派400年」にちなみ博物館や美術館、寺院はもちろんのこと百貨店、画廊、商店街が琳派一色で染まった一年でした。

博物館や美術館ではその流れも受け、通称「京都ミュージアムズ・フォー」と呼び、京都国立博物館、京都府京都文化博物館、京都市美術館、京都国立近代美術館の4館が連携して、各館の特質を活かし、琳派を多くの方々に紹介してきました。実はこのような連携はこれまでそれぞれの事情によってなかなか難しかったものですが、琳派の名の元に実現できました。

「工芸」とは

日本には、明治時代になるまで「美術」や「工芸」という言葉はありませんでした。西洋から入ってきた「アート」や「クラフト」という言葉に合う概念が無かったためにつくられたのです。

長い間、日本人は美術と工芸を区別せずに手仕事を慈しんできました。琳派の絵師たちも、蒔絵や着物の図案、陶磁器の絵付けなど、描く場所を選ばずに自由に表現活動をしています。昭和、平成と時代が経つなかで、日常で使う「用の美」の工芸と、美術館で仰ぎ見る「観賞する工芸」が乖離してしまったようにも思います。この先、100年の工芸を考えると、再びこの両者の融合は不可欠といえるでしょう。

京都で工芸が発展した最大の理由は、ここに都があったからです。天皇家や公家など上流階級からの注文に応じることで技術が高まってきました。最上の品を求める、最上級のお客さんが職人を育ててきたのです。続々と入る注文は技術を向上させ、後継者の流入も促進させ、新

しい道具や材料も次々と生産されます。京都の工芸は1000年以上もの間、こうした循環に支えられてきました。現在はほぼ失われてしまったこの循環をもう一度立て直すには、買い手、使い手の所在と関係性をあらためて定義することが必要です。

100年後に残る、工芸のために

「琳派400年」のこの記念すべき年の最後に、もう一つの連携が生まれています。「100年後に残る、工芸のために」を合い言葉に、博物館、美術館、大学をはじめとする工芸に関わる様々な機関が集まって、明日の工芸を考えようという試みです。これまで同じ工芸をテーマに活動していても、研究者や学芸員、職人さんが同じテーブルで議論する機会はこれまでほとんどありませんでした。今回、「オール京都」で工芸を取り巻く諸問題を共有し、議論を行います。

現在、工芸が抱える多くの問題はいずれも一朝一夕では解決できないものばかりです。これまで職人さんたちが直面している苦しい現状について、あまり語られることはありませんでした。道具や材料の枯渇、流通の変化、後継者問題……。簡単には解決できない問題が山積みで、職人さんたちはやせ細っていくばかりの状況です。手仕事を受け継ぐのは大切なことですが、同時にその環境整備も進めなければ諸問題は残ったままになります。なかでもお金の話となると憚られるテーマとはいえ、「職人さんがどうやって稼ぐか」という直接的な問題にも向き合っていきたいと考えています。

工芸には、「伝統」という言葉が必ずついてきますが守るだけでは続きません。伝統に何を加えるか、それを見つければ先には進めないものです。大切なのは、まず関係者全員で課題を出し合い、整理し、解決へ向けた方策を議論することでしょう。本フォーラムを終えたとき、それがひとつでも見つかっていればこの取り組みは大成功といえるのではないでしょう。

本フォーラムが、日本の手仕事に関心を寄せるみなさんにとって、工芸を「見る」「学ぶ」そして「参加」しながら、新たな気づきの機会となることを強く願っています。



■ 京都から始まる、 ■ 工芸の オールジャパン連携へ

「100年後に残る工芸のために」
普及啓発実行委員会 福会長
オールジャパン工芸連携
京都・東京・金沢 実行委員会委員長

はやし だ ひで き
林田英樹

〔一般社団法人ザ・クリエイション・オブ・ジャパン 代表理事〕

このたび、日本工芸の神髄に触れる様々な楽しい企画に参加していただきながら、各界で影響力のある方々に、工芸界を支援するグループに参加していただくという活動をオールジャパンで行っていく動きが始まりました。今回その一つの形として、「琳派400年」の年に、工芸の都の名にふさわしい京都の地で「21世紀鷹峯フォーラム」を開催できることになりました。

京都国立近代美術館に立ち上がっていただき、京都国立博物館、京都市美術館、京都工芸繊維大学、京都精華大学、京都造形芸術大学をはじめ、京都府京都文化博物館、清水三年坂美術館、京都市立芸術大学、京都美術工芸大学、京都文化交流コンベンションビューロー、インパクトハブ京都など、京都のみならず日本を代表する博物館、美術館、美術系大学の連携が実現しました。改めまして関係者のみなさまに深く感謝を申し上げます。同時にこれは、工芸の問題にそれぞれの立場で真剣に取り組まれてきたなかで、分野やグループを越えて連携して取り組む必要性が切実である証しでもあるのではないかと思います。

「本フォーラム」では、工芸を「学ぶ」「見る」そして「参加する」さまざまなイベントを通して、各機関の所蔵する工芸品や研究の価値を見直し、これまでの課題意識を検証していきます。工芸を「誰かが残してくれる」存在から自分が「残す行為に参加する」意識改革を促すこともできればと願っています。

そして京都の成果から、東京、金沢、そして日本全体に連携の輪を広げながら、工芸の問題に向き合い、工芸ニッポンの再興を目指して、工芸文化を支える活動になっていくことを願っています。みなさまどうぞお力をお貸しください。

21世紀鷹峯フォーラム in 京都 概要

- 主催** — 「100年後に残る工芸のために」普及啓発実行委員会
(京都国立近代美術館 京都国立博物館 京都市美術館 京都工芸繊維大学
京都精華大学 京都造形芸術大学 COJ)
オールジャパン工芸連携 京都・東京・金沢 実行委員会
文化庁による平成27年度 「地域の核となる美術館・歴史博物館」支援事業
- 助成** — 京都市の助成金を活用しています。
- 後援** — 経済産業省／京都府／京都市／公益財団法人 国立京都国際会館
琳派400年記念祭委員会／公益財団法人 京都文化交流コンベンションビューロー
一般社団法人 京都経済同友会／NHK京都放送局／朝日新聞社
読売新聞社／京都新聞社
- 協力** — 関西電業社、京都信用金庫、ホテルサンバレー、八洋、ムラコシホールディングス



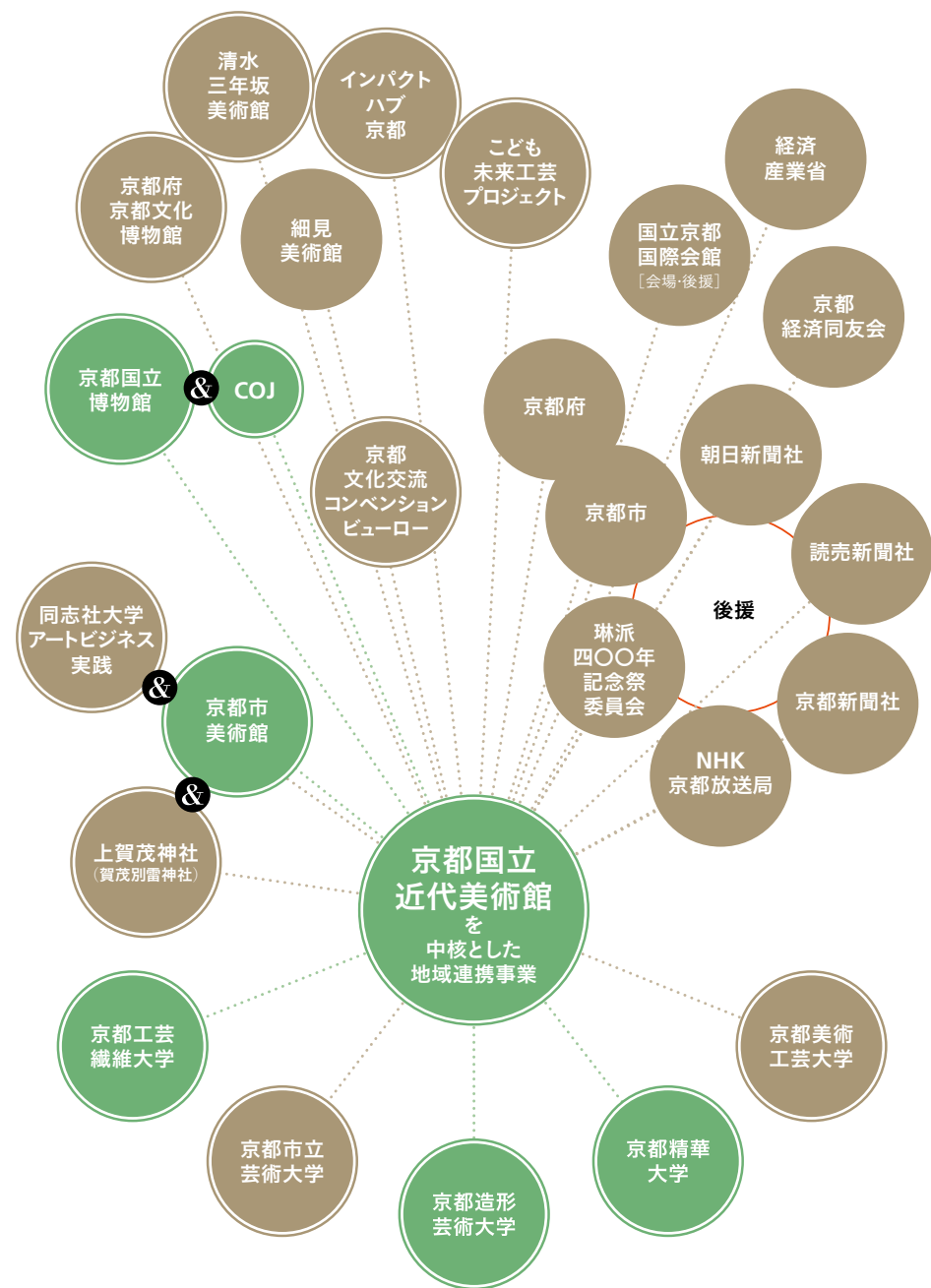
スタート 2015年10月7日(水)

メイン期間 2015年11月30日(水)～12月6日(日)

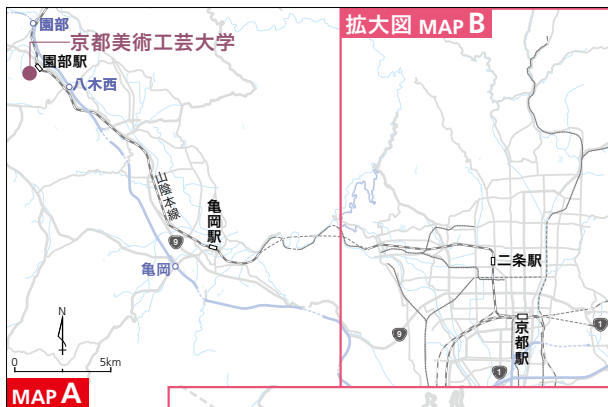
主な参加機関 京都国立近代美術館 京都国立博物館 京都市美術館
京都工芸繊維大学 京都精華大学 京都造形芸術大学
京都府京都文化博物館 細見美術館 清水三年坂美術館
京都市立芸術大学 京都美術工芸大学 上賀茂神社
インパクトハブ京都 ほか

実行委員会

- 会長** 柳原正樹 [京都国立近代美術館長]
- 副会長** 林田英樹 [一般社団法人ザ・クリエイション・オブ・ジャパン 代表理事]
- 委員** 佐々木丞平 [京都国立博物館長]
潮江宏三 [京都市美術館長]
古山正雄 [京都工芸繊維大学 学長]
尾池和夫 [京都造形芸術大学 学長]
竹宮恵子 [京都精華大学 学長]
松原龍一 [京都国立近代美術館 学芸課長]
岩関禎子 [一般社団法人ザ・クリエイション・オブ・ジャパン 専務理事]
- 監事** 川村耕太郎 [一般社団法人ザ・クリエイション・オブ・ジャパン 監事]



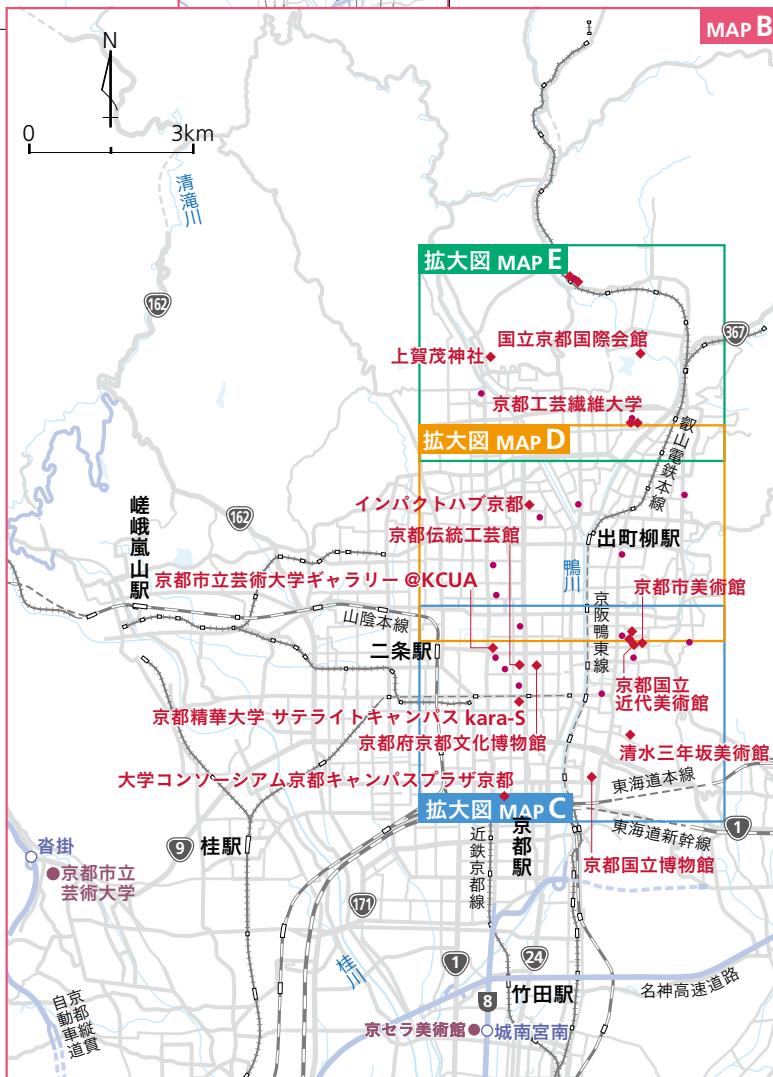
～ 11月29日（日）				11月30日（月）		12月1日（火）		12月2日（水）		12月3日（木）		12月4日（金）		12月5日（土）		12月6日（日）	
01 ▶ P.28 京都の工芸																	
												I3 ▶ P.42 職人が案内する 工房見学・体験ツアー		I6 ▶ P.42 職人が案内する 工房見学・体験ツアー			
				07 ▶ P.33 京の食文化と工芸 ——私のこだわり		09 ▶ P.37 こども未来工芸 ワークショップ						I5 ▶ P.41 工芸とデザイン		I7 ▶ P.46 つくるフォーラム 公募説明会		23 ▶ P.52 100年後に残る 工芸のために	
04 ▶ P.31 よそおいの細密工芸																	
05 ▶ P.32 工芸とデザイン＋京都の伝統産業実習報告展														I8 ▶ P.48 愛しむ工芸 詠えの歴史			
				06 ▶ P.34 私の好きな工芸 ※最終日は～13時（入館は12時半まで）								I4 ▶ P.44 絶滅危惧の素材と 道具		I9 ▶ P.49 上賀茂神社 特別参拝			
														20 ▶ P.49 工芸における琳派 コードを読み解く トークセッション in 上賀茂神社			
				08 ▶ P.36 京のわざ、日本のわざ ——フィルムで見る京の伝統工芸													
														21 ▶ P.50 正倉院宝物 復元プロジェクト			
				I0 ▶ P.38 KYOTO DESIGN＋CRAFTS FAIR													
イベントカレンダー 見る 学ぶ 参加する						I1 ▶ P.39 次世代の食と工芸								22 ▶ P.51 鷹峯ナイト			
												I2 ▶ P.40 正倉院宝物復元プロジェクト					



MAP A



拡大図 MAP B



MAP B

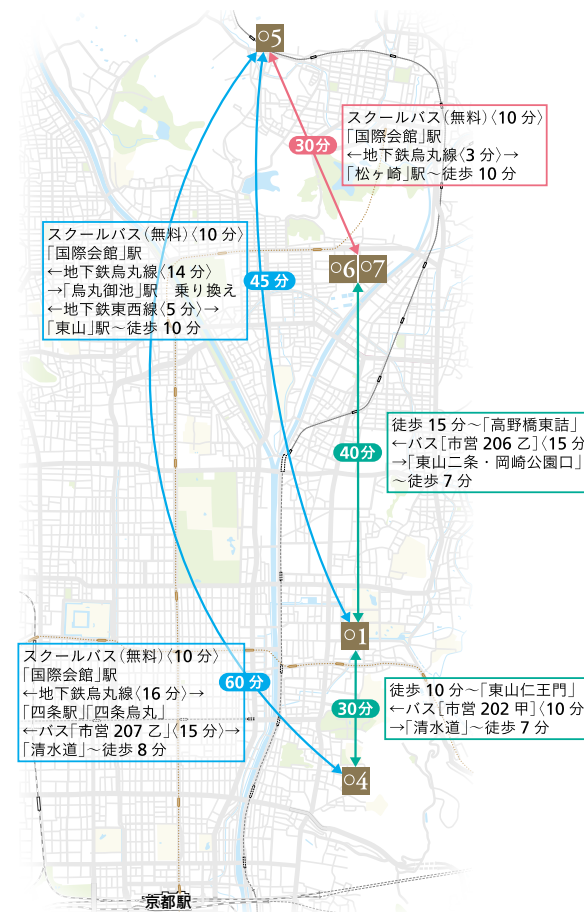
拡大図 MAP E

拡大図 MAP D

拡大図 MAP C

鷹峯日替わりMAP

開催のイベント(アクティビティ)が、日替わりで盛りだくさん。
行ってみたら会期が終わっていた、ということが
ないための。日替わりmap。



- 紅梅色＝鉄道・地下鉄
- 緑色＝バス
- 水色＝鉄道・地下鉄＋バス
- 橙色＝徒歩のみ

11月30日
(月)

〇I 展示 ▶ p.28

京都の工芸

会場: 京都国立近代美術館

〇4 展示 ▶ p.31

よそおいの細密工芸

会場: 清水三年坂美術館

〇5 展示 ▶ p.32

「工芸とデザイン—伝統の再解釈、手仕事の現在地—」
＋「京都の伝統産業実習報告展」

会場: 京都精華大学明窓館
ギャラリーフロール

〇6 展示 ▶ p.34

私の好きな工芸
スタート

会場: 京都工芸繊維大学
美術工芸資料館

〇7 講演 ▶ p.41

17:30～19:00
京の食文化と工芸
—私のこだわり—

会場: 京都工芸繊維大学
60周年記念館

01 展示 ▶p.28

京都の工芸

会場: 京都国立近代美術館

04 展示 ▶p.31

よそおいの細密工芸

会場: 清水三年坂美術館

08 上映会 ▶p.36

京のわざ、日本のわざ
——フィルムで見る京の伝統工芸

スタート

会場: 京都府京都文化博物館
3階フィルムシアター

01 展示 ▶p.28

京都の工芸

会場: 京都国立近代美術館

04 展示 ▶p.31

よそおいの細密工芸

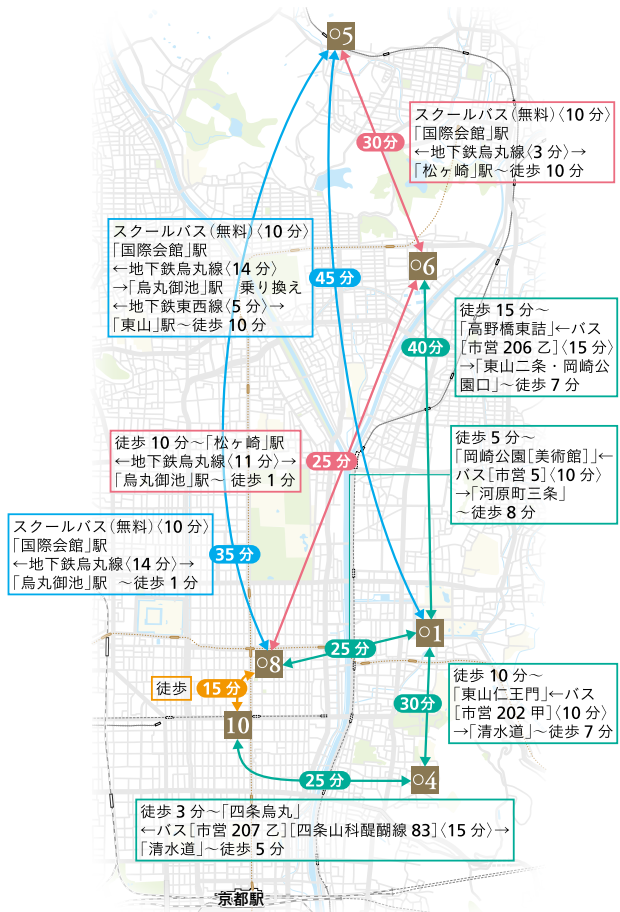
会場: 清水三年坂美術館

05 展示 ▶p.32

**「工芸とデザイン—伝統の再解釈、手仕事の現在地—」
＋「京都の伝統産業実習報告展」**

会場: 京都精華大学明窓館 ギャラリーフロール

12月1日
(火)



05 展示 ▶p.32

**「工芸とデザイン—伝統の再解釈、手仕事の現在地—」
＋「京都の伝統産業実習報告展」**

会場: 京都精華大学明窓館
ギャラリーフロール

06 展示 ▶p.34

私の好きな工芸

会場: 京都工芸繊維大学
美術工芸資料館

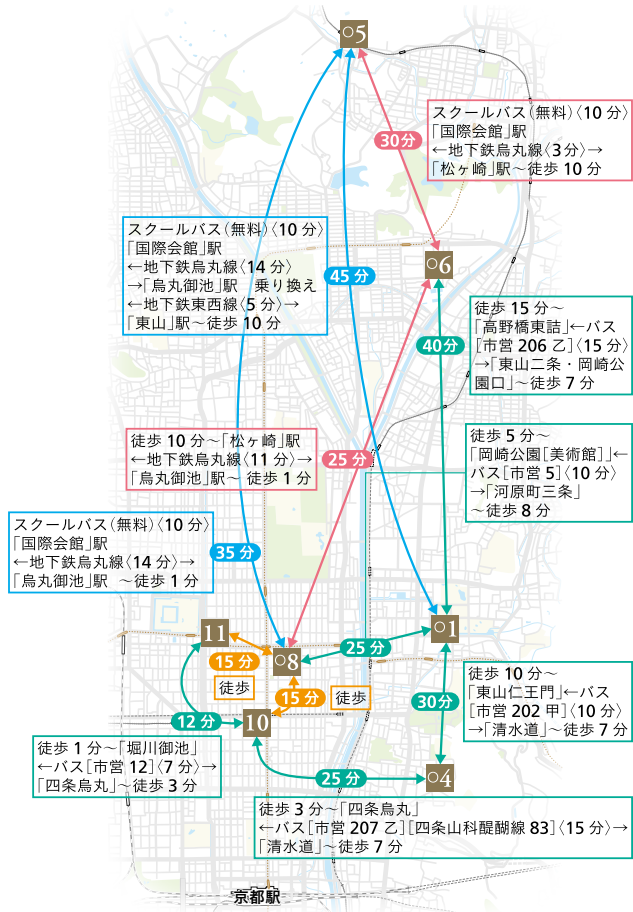
10 展示販売 ▶p.38

KYOTO DESIGN + CRAFTS FAIR

スタート

会場: 京都精華大学
サテライトスペースkara-S

12月2日
(水)



06 展示 ▶p.34

私の好きな工芸

会場: 京都工芸繊維大学 美術工芸資料館

08 上映会 ▶p.36

京のわざ、日本のわざ
——フィルムで見る京の伝統工芸

会場: 京都府京都文化博物館 3階フィルムシアター

11 トークセッション／講演 ▶p.39

17:00～20:00

次世代の食と工芸

会場: 京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA (アクア)

10 展示販売 ▶p.38

KYOTO DESIGN + CRAFTS FAIR

会場: 京都精華大学 サテライトスペースkara-S

01 展示 ▶p.28

京都の工芸

会場: 京都国立近代美術館

04 展示 ▶p.31

よそおいの細密工芸

会場: 清水三年坂美術館

05 展示 ▶p.32

「工芸とデザイン—伝統の再解釈、手仕事の現在地—」
＋「京都の伝統産業実習報告展」

会場: 京都精華大学明窓館 ギャラリーフロール

01 展示 ▶p.28

京都の工芸

会場: 京都国立近代美術館

04 展示 ▶p.31

よそおいの細密工芸

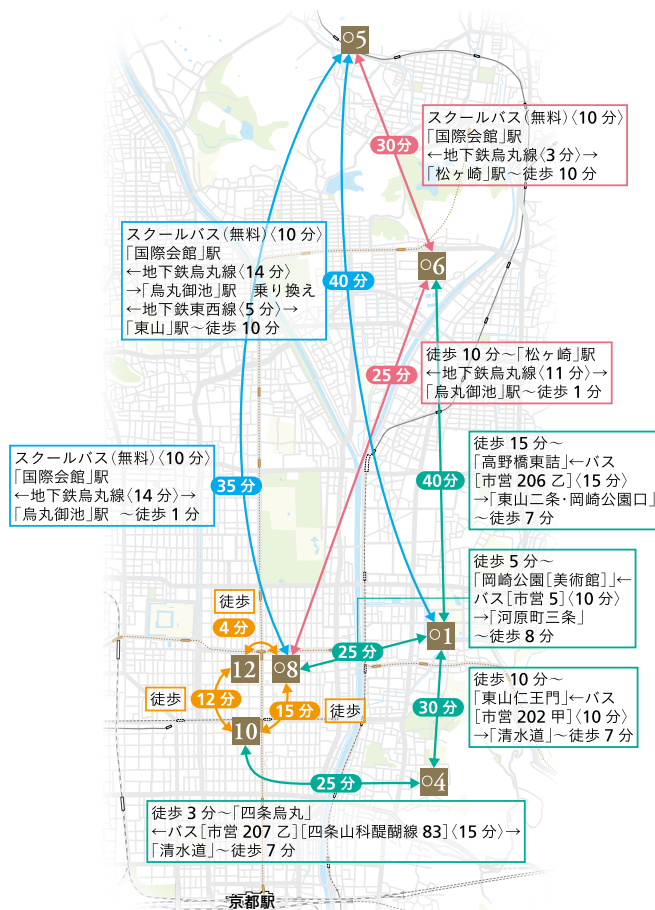
会場: 清水三年坂美術館

05 展示 ▶p.32

「工芸とデザイン—伝統の再解釈、手仕事の現在地—」
＋「京都の伝統産業実習報告展」 **最終日**

会場: 京都精華大学明窓館 ギャラリーフロール

12月3日
(木)



06 展示 ▶p.34

私の好きな工芸 **最終日**

※～13時(入館は12時半まで)

会場: 京都工芸繊維大学 美術工芸資料館

08 上映会 ▶p.36

京のわざ、日本のわざ
—フィルムで見る京の伝統工芸—

会場: 京都府京都文化博物館 3階フィルムシアター

10 展示販売 ▶p.38

KYOTO DESIGN + CRAFTS FAIR

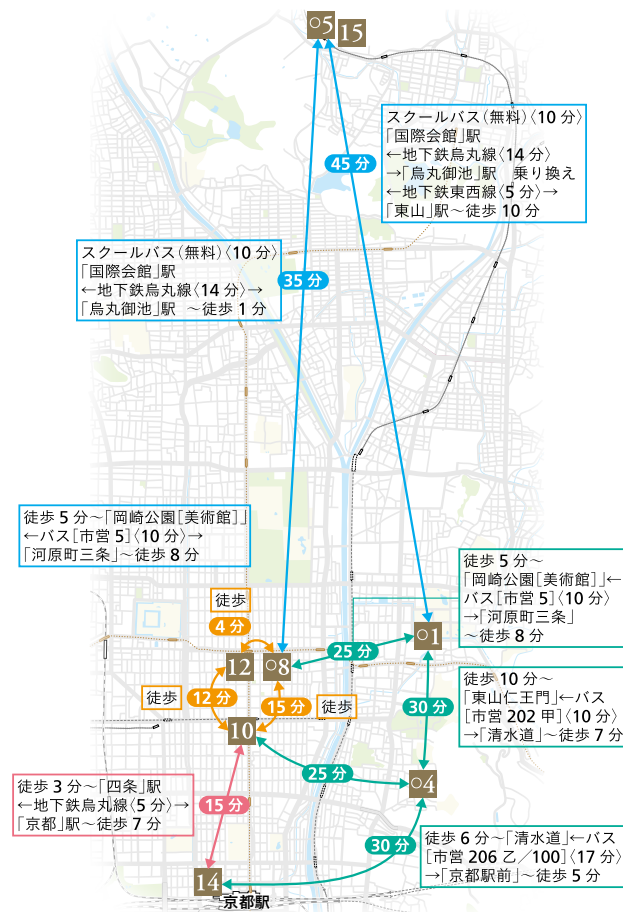
会場: 京都精華大学 サテライトスペースkara-S

12 展示 ▶p.40

正倉院プロジェクト **スタート**

会場: 京都伝統工芸館 1階ギャラリー

12月4日
(金)



08 上映会 ▶p.36

京のわざ、日本のわざ
—フィルムで見る京の伝統工芸—

会場: 京都府京都文化博物館 3階フィルムシアター

10 展示販売 ▶p.38

KYOTO DESIGN + CRAFTS FAIR

会場: 京都精華大学 サテライトスペースkara-S

14 ワークショップ/ラウンドテーブル ▶p.44

17:30～20:00

絶滅危惧の素材と道具

会場: 大学コンソーシアム京都 キャンパスプラザ京都 4階第2講義室

15 トークセッション ▶p.41

13:00～15:00

工芸とデザイン

会場: 京都精華大学 友愛館アゴラホール

12 展示 ▶p.40

正倉院プロジェクト

会場: 京都伝統工芸館 1階ギャラリー

01 展示 ▶ p.28

京都の工芸

会場: 京都国立近代美術館

04 展示 ▶ p.31

よそおいの細密工芸

会場: 清水三年坂美術館

12 展示 ▶ p.40

正倉院プロジェクト

会場: 京都伝統工芸館
1階ギャラリー

08 上映会 ▶ p.36

京のわざ、日本のわざ
——フィルムで見る京の伝統工芸

会場: 京都府京都文化博物館 3階フィルムシアター

10 展示販売 ▶ p.38

KYOTO DESIGN+CRAFTS FAIR

会場: 京都精華大学 サテライトスペース kara-S

01 展示 ▶ p.28

京都の工芸

最終日

会場: 京都国立近代美術館

04 展示 ▶ p.31

よそおいの細密工芸

会場: 清水三年坂美術館

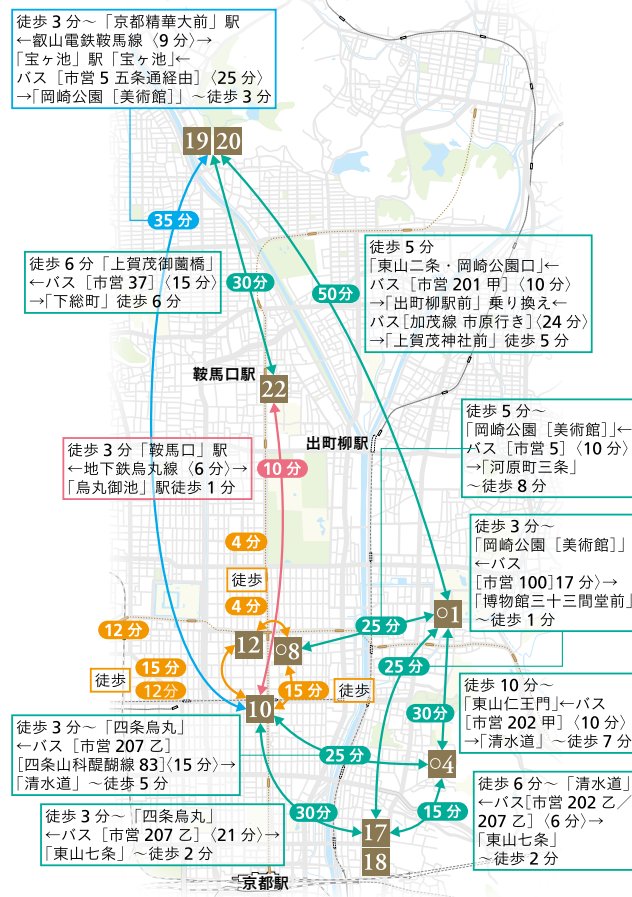
08 上映会 ▶ p.36

京のわざ、日本のわざ
——フィルムで見る京の伝統工芸

最終日

会場: 京都府京都文化博物館
3階フィルムシアター

12月5日
(土)



17 公募説明会 ▶ p.46

11:00〜16:00

つくるフォーラム
公募説明会

会場: 京都国立博物館 平成知新館 講堂 + グランドロビー

18 講演 ▶ p.48

13:30〜15:00

愛しむ工芸 詠えの歴史

会場: 京都国立博物館 平成知新館 講堂

19 ワークショップ ▶ p.49

16:00〜17:00

上賀茂神社特別参拝

会場: 上賀茂神社
集合場所: 客殿

20 トークセッション／講演 ▶ p.49

17:00〜18:00

工芸における
琳派コードを読み解く
トークセッション in 上賀茂神社

会場: 上賀茂神社客殿

21 トークセッション／講演 ▶ p.50

16:30〜18:00

正倉院プロジェクト

会場: 京都伝統工芸館 6階

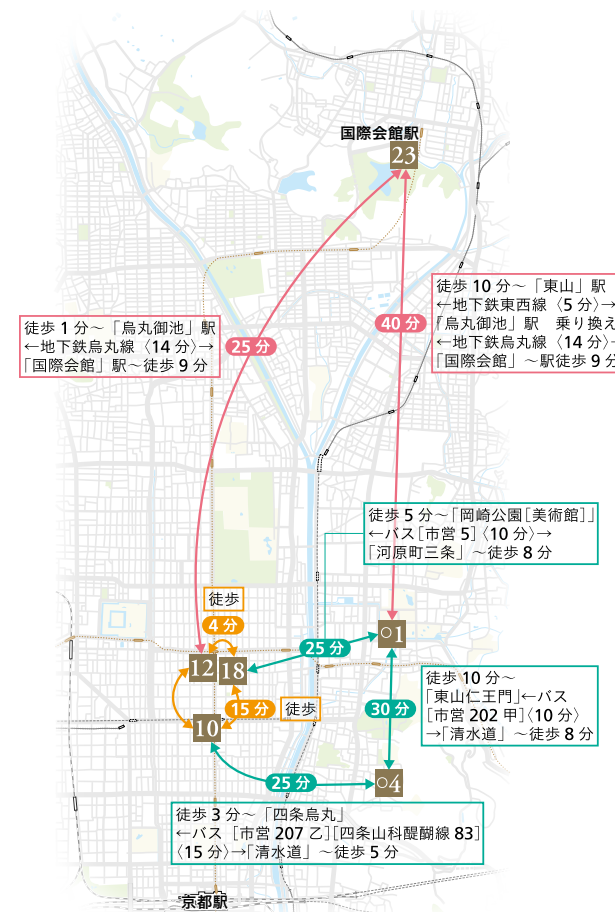
22 パーティ ▶ p.51

18:30〜21:00

鷹峯ナイト

会場: インパクトハブ京都

12月6日
(日)



10 展示販売 ▶ p.38

KYOTO DESIGN + CRAFTS FAIR

最終日

会場: 京都精華大学
サテライトスペース kara-S

23 シンポジウム ▶ p.52

13:00〜16:40

メインシンポジウム
「100年後に残る工芸のために」

会場: 国立京都国際会館 ルームA

12 展示 ▶ p.40

正倉院プロジェクト

最終日

会場: 京都伝統工芸館
1階ギャラリー







工芸が直面する問題

- 素材や道具の枯渇、後継者不足、需要の低下
- 問題、および調査や試みの共有化の不足、連携体制の未整備

日本の工芸は、世界に誇る文化であり注目度も高まっています。一方で素材や道具の枯渇、後継者不足、さらにはライフスタイルの変化による需要の低下など多くの問題を抱え、不安な状況です。

これらの問題を多くのの人たちが危機感として捉えて、さまざまな機関や自治体は真摯に調査や支援を行っています。しかし、貴重な情報や経験が活かされにくい状況が続いてきました。また明治以来、工芸は美術と産業に分断され、日本全体を俯瞰した情報や問題が集約されにくく、連携協力体制が築きにくい状況が続いています。

「21世紀鷹峯フォーラム」とは

- 工芸を積極的に発信する、工芸の祭典
- 工芸の町で「学ぶ」「見る」「考える」機会を同時多発的に開催
- 京都の主要な美術館、美術系大学が工芸で連携

「21世紀鷹峯フォーラム」は、京都国立近代美術館及び、美術館・博物館、美術系大学、機関が連携し、工芸を「見る」「学ぶ」「考える」、そして「体感する」さまざまなイベントを同時多発的に開催する工芸の祭典です。

京都には工芸に向き合ってきた美術館・博物館、美術系大学、諸機関が集まっています。各館・機関の得意分野や特性を活かして、開催するものです。工芸を一人でも多くの方に知り楽しんでもらう、さらには工芸にまつわる、作家・職人、素材提供者、使い手、つなぎ手、研究者、教育関係者、そして学生、一般の方たちが、展覧会、シンポジウム、ワークショップに集うことで、問題を共有し、工芸を「誰かが残してくれる」存在から自分が「残す行為に参加する」意識に変化する機会を目指しています。

今回は「日本の工芸の未来をつくる」ネットワークの構築づくりを試みる契機と捉えています。京都の主要な美術館・博物館、美術系大学、機関と連携しながらイベントを開催し、各機関がこれまでに取り組んできた工芸の課題意識をあらためて検証・集約・提言する場をつくっていきます。それぞれ機関が所蔵している近代以降の工芸品の価値を改めて見直す機会ともなり、未来を考える重要な要素となります。

鷹峯の名称

- 課題意識を共有する、すべての人びとが一堂に会することで生まれる

鷹峯は日本最初の芸術村とされる洛北の地名です。江戸時代初期、書家であり陶芸に長ける本阿弥光悦ほんあ みこうえつを中心に、職人であるつくり手から、芸術家、文化を支えた町衆、豪商たちが集まり、それまでになかった使い手の視点を直接反映した新しい工芸が生まれました。

本年は琳派400年にちなみ、京都では大規模な記念事業が展開されていますが、「21世紀鷹峯フォーラム」は「現代版鷹峯」としての気概をもちながら開催していくものです。課題意識を共有するすべての人びとが一堂に介し、複雑化した国内工芸ジャンルを横断的につなげる初の試みとなることを目指しています。

参加20団体による25のアクティビティー

● 工芸を見る

「京都の工芸」「次世代工芸展」「よそおいの細密工芸」「工芸とデザイン」「私の好きな工芸」「京のわざ、日本のわざフィルムで見る京の伝統工芸」「KYOTO DESIGN × CRAFTS FAIR」「正倉院プロジェクト」

● 工芸を学ぶ

「次世代工芸展審査結果発表 + ギャラリートーク」「京の食文化と工芸—私のこだわり」「次世代の食と工芸」「工芸とデザイン」「愛しむ工芸 詠えの歴史」「上賀茂神社特別参拝」「工芸における琳派コードを読み解くトークセッション in 上賀茂神社」「正倉院プロジェクト」

● 工芸に参加する

「こども未来工芸ワークショップ—うるし編—」「職人が案内する工房見学・体験ツアー」「絶滅危惧の素材と道具」「つくるフォーラム 公募説明会」「鷹峯ナイト」「100年後に残る工芸のために」

第4回コレクション展 特集展示

京都の工芸

〔主催〕京都国立近代美術館

10月7日(水)～12月6日(日)

開館時間 9:30～17:00(入館は16:30まで)

会場 京都国立近代美術館
4階コレクション・ギャラリー

京都市左京区岡崎円勝寺町

観覧料 一般430(220)円、大学生130(70)円

休館日 月曜(ただし祝日の場合は、翌火曜)

※()内は20名以上の団体料金。

※高校生、18歳未満、65歳以上、心身に障害のある方と
付添者1名は無料(入館の際に証明できるものをご提示
ください)

交通 市営地下鉄東西線「東山」駅下車、徒歩約10
分

※専用駐車場はございません。近隣の有料駐車場施設を
ご利用ください

問 京都国立近代美術館

TEL: 075-752-0509

※最終日は～13時(入館は12時半まで)

キュレーター

松原龍一〔まつばら・りゅういち〕

京都国立近代美術館学芸課長。新潟県に生まれる。同
館主任研究員を経て、2013年より現職。



京都国立近代美術館は、1963年に「国立
近代美術館京都分館」として設置されて
以来、「工芸」を美術館活動の重要な柱
の一つとして、これまで数多くの工芸展
を開催してきました。特に「京都の工
芸」展シリーズは、近代工芸の黎明期か
ら揺籃期、そして工芸が大きく変貌を遂
げた戦後において、さまざまなグループ
の結成や意欲的な活動を総覧する、また
とない機会となりました。今回は京都国
立近代美術館のコレクションから、1998
年、2001年の「京都の工芸」展シリーズ
に出品された陶芸、染織、漆芸など約
40点を中心に、京都の近代工芸の多様
な動向を振り返ります。

京都国立近代美術館と工芸

設立当初から、地場産業が盛んな地元・京都市
の要望に応えるかたちで工芸に重点を置いてきま
した。開館以来50年以上にわたり、工芸に関す
る展覧会を毎年必ず開催し、調査研究を行ってき
たことは特筆すべき取り組みと言えます。さらに、
開催される工芸展の内容は、古代の染織品から
現代のジュエリー作品にいたるまできわめて多岐に
わたっており、幅広い視点で工芸を検証する試み
を継続してきたことも特徴です。

これまでの工芸に関する主な展覧会

「うるしの近代——京都、『工芸』前夜から」
「KATAGAMI Style ——もうひとつのジャポニスム」
「交差する表現 工芸／デザイン／総合芸術」「『織』
を極める 人間国宝 北村武資」「上野伊三郎トリチ
コレクション展 ウィーンから京都へ、建築から工
芸へ」「生誕120年 富本憲吉展」「through the
surface: 表現を通して—現代テキスタイルの日英交
流」「没後25年 八木一夫展——現代陶芸の異才」
「神坂雪佳展——琳派の継承・近代デザインの先駆
者」「近代七宝の美—並河靖之の技—展」「京都の工
芸 1945—2000」「万国博覧会と近代陶芸の黎明
展」



麻田脩二《WORK-G》1971年

服部峻昇
《漆屏風「未来への旅立」》1973年



森口邦彦《友禅訪問着「網代暈模様」》1968年

〔上〕坪井明日香《歡樂の木の実》1973年
〔下〕河井寛次郎《打葉扁壺》1962年

次世代工芸展

〔主催〕同志社大学アートビジネス実践

11月18日(水)～11月22日(日)

開館時間 10:00～17:00、11月21日(土)は
14:00～

会場 京都市美術館 別館1階

京都市左京区岡崎最勝寺町13

観覧料 無料

交通 市営地下鉄東西線「東山」駅下車、徒歩10分

主催 次世代工芸展実行委員会

運営協力 株式会社AGホールディングス

問 AGホールディングス

TEL:03-3465-3010 MAIL:info@ag-h.net

審査員

建畠 哲

〔前京都市立芸術大学学長、多摩美術大学学長〕

秋元雄史

〔金沢21世紀美術館館長、東京藝術大学大学美術館館長〕

小和田愛

〔AI KOWADA GALLERY ディレクター〕

さまざまな工芸が地域に密着している地、京都。次世代工芸展は、この京都という場所から若い世代(40才未満)の新しい工芸の形、あり方を発信し日本の工芸界全体を盛り上げるきっかけ作りを目指しています。前年度同様、工芸の新たなあり方や若い世代の作家の視点を、展示自体によって紹介します。そのため、それぞれの作品の見せ方を重視します。展示スペースは、「アートフェア的ミニ個展」が行えるような広さにしています。作品応募については、京都、東京、金沢、広島、他、と地域別に代表を決めて、作家には予め地域別に割り当てる展示スペースに自由に展示をしていただきます。各グループの作品を、より魅力的に見せる展示を出品者自身が行います。審査員は各審査員賞及び大賞を選出します。

次世代工芸展審査結果発表 十ギャラリートーク

〔主催〕京都国立近代美術館

11月21日(土)14:00～

よそおいの 細密工芸

〔主催〕清水三年坂美術館

11月21日(土)～2月14日(日)

開館時間 10:00～17:00(入館は16:30まで)

会場 清水三年坂美術館

京都市東山区清水寺門前

産寧坂北入清水三丁目337-1

観覧料 大人800(640)円、大・高・中学生500(400)円 休館日 月・火曜(祝日は開館)

交通 バス停「清水道」より徒歩7分 ※専用駐車場はございません。近隣の有料駐車場施設をご利用ください ※三年坂は土・日・休日の10:00～17:00の間、車両通行禁止となりますのでご注意ください

問 清水三年坂美術館 TEL:075-532-4270

清水三年坂美術館と工芸

明治を中心に幕末・大正時代の蒔絵、金工、七宝、焼き物、彫刻などを収集・展示しています。宮内省(現在の宮内庁)はじめ、国内の数寄者向けに作られた一級作品、および貿易用に製作された美術価値が高い作品はどの分野をとっても今や再現不可能な細密で繊細で高度な技術で作られたものばかりです。3カ月ごとに開催される企画展のほか、常設展示として蒔絵、金工、七宝、京薩摩焼などの作品だけでなく、技法や道具、材料、工程の紹介も行っています。

これまでの工芸に関する主な企画展

「金工鐔の美」「喫煙具—煙管(キセル)と筒と煙草入」「幕末・明治の超細密根付—森田藻己一派を中心に」「蒔絵の文台・硯・料紙箱」「刀の拵」「絹糸で描いた刺繍絵画の世界」「鍛鉄の美——鍔(あぶみ)、鐔(つば)、自在置物」「京薩摩」「印籠百展」「明治の七宝」



羽寄蒔絵櫛

江戸から明治にかけては、金工、漆芸、彫刻などの手工芸の分野において、技法的にも芸術的にも頂点に達していた時代といえます。江戸の太平の世の中で、身を飾り装うことを楽しむ人々が増えると、実用を兼ねた刀の拵や印籠、髪飾りなどの装身具の意匠は、高度な技を駆使して美的に洗練されていきました。

しかし明治になると、武家社会の崩壊と生活様式の西洋化にともない、刀や印籠などの需要が激減し、制作に携わっていた多くの職人達が失業します。そうした中、懐中時計や帯留、指輪といった新しい装身具の需要が生まれ、優れた人材がこの市場に活路を求めました。そこには、江戸時代までに培われた一流の技術や感性が遺憾なく発揮され、花鳥風月や遊び心が表現された魅力的な作品が生み出されました。

今展では、刀装具や印籠、髪飾り、帯留、カフスなど江戸から明治にかけて作られた装身具を展示します。人々の装いに華をそえた名品の数々をご高覧下さい。



獅子、熊図
彫金カフス

「工芸とデザイン——伝統の再解釈、手仕事の現在地」 「京都の伝統産業実習報告展」

〔主催〕京都精華大学

11月23日(月・祝)～12月4日(金)

開館時間 11:00～18:00

会場 京都精華大学明窓館
ギャラリーフロール

http://www.kyoto-seika.ac.jp/fleur/
京都市左京区岩倉木野町137

観覧料 無料

休館日 日曜

交通 市営地下鉄烏丸線「国際会館」駅下車、スクールバス(無料)にて約10分

問 京都精華大学 教務課

TEL:075-702-5244

コーディネーター

佐藤敬二〔さとう・けいじ〕

京都精華大学教授。専門は、デザイン史、伝統産業、素材と技術、意匠学。元京都市産業技術研究所部長。漆・木・竹・金属・陶器など自然素材を使った生活用品の企画とプロダクトデザイン、デザイン評論を手がける。京都府美術工芸ビエンナーレ審査委員長、伝統工芸指定産地委員(審査員)、国民文化祭京都2011「暮らしの文化展」展示委員、現在みやこめっせ伝統産業振興センター理事、意匠学会副会長、日本デザイン学会幹事。

「工芸とデザイン——伝統の再解釈、手仕事の現在地」では、京都の伝統工芸を現代的なデザインで再解釈し、意欲的な製品を発表する企業・組織に焦点を当て、その代表的な製品の展示を行います。伝統的な手仕事にデザインを掛け合わせて新しい価値を創造する職人・デザイナー・ディレクターを紹介し、2015年時点の京都における、その活動の記録を目的としています。また、同時開催の「京都の伝統産業実習報告展」では、京都精華大学で1980年より、京都の伝統産業に携わる工房・企業の現場に弟子入りして学ぶ「京都の伝統産業実習(学外実習)」プログラムの成果報告展です。染織、和紙、京版画、竹・木工芸、金工芸、文化財修復、京造園などのさまざまな分野の実習先で学んだ技術を活かし、約50名の学生がデザイン・制作した作品を展示します。

京都精華大学と工芸

1980年より30年以上にわたり、毎年、夏期2週間程度、京都の伝統産業に携わる工房・企業の現場に学生を派遣して指導を受ける「京都の伝統産業実習(学外実習)」プログラムを実施しています。染織、和紙、京版画、竹・木工芸、金工

芸、文化財修復、京造園など、これまでお世話になった実習先は160社、実習生は約3,400人になります。この実習を契機とし、実際に伝統産業の道に進んだ卒業生も少なくありません。

京の食文化と 工芸——私のこだわり

〔主催〕京都工芸繊維大学



60周年記念館

11月30日(月)

開催時間 17:30～19:00

会場 京都工芸繊維大学
60周年記念館

京都府京都市左京区松ヶ崎橋上町

参加費 無料

交通 市営地下鉄烏丸線「松ヶ崎」駅より、徒歩約8分

「松ヶ崎」駅出口1より右(東)へ約400m、四つ目の信号を右(南)へ約180m

問 京都工芸繊維大学

TEL:075-724-7739

講演者

高橋英一〔たかはし・えいいち〕

南禅寺・瓢亭第十四代当主、京都料理組合組合長、日本料理アカデミー会長。

1939年京都に生まれる。同志社大学卒業。1967年瓢亭 十四代を継承。1992年京都府優秀技能者表彰受賞。2006年京都府文化賞功労賞受賞。2007年厚生労働大臣卓越技能者表彰受賞。2009年第六回裏千家茶道文化振興賞受賞。2010年ミシュランガイド京都・大阪2010にて三ツ星を獲得。著書に『懐石入門』、『瓢亭——四季の料理と器』(柴田書店)、『京都・瓢亭——懐石の器とところ』(世界文化社)、『瓢亭の点心入門』、『旬の器——もてなしの美学』(淡交社)



私の好きな工芸

[主催] 京都工芸繊維大学

美術工芸資料館



11月30日(月)～12月3日(木)

開館時間 10:00～17:00 (入館は16:30まで)

※最終日は13:00 (入館は12:30) まで

会場 京都工芸繊維大学
美術工芸資料館

京都府京都市左京区松ヶ崎橋上町

観覧料 一般200円、大学生150円、高校生以下
無料(京都・大学ミュージアム連携所属大学の学生・院生
は学生証の提示により無料)

休館日 日曜・祝日

交通 市営地下鉄烏丸線「松ヶ崎」駅下車、徒歩約
8分 「松ヶ崎」駅出口1より徒歩約400m、四つ
目の信号を右(南)へ約180m

企画協力 (社) ザ・クリエイション・オブ・ジャパン

問 京都工芸繊維大学

TEL: 075-724-7739

ファシリテーター

澤田美恵子 [さわだ・みえこ]

京都工芸繊維大学基盤科学系教授。
フランス・グルノーブル大学講師、
神戸大学助教授、京都工芸繊維大
学准教授を経て、2008年より現職。
著書に『工芸の四季——愛しいも
のがある生活』(京都新聞出版セン
ター)、『現代日本語における「とりたて助詞」の研究』
(くろしお出版) など。現在、京都新聞「現代のことば」
連載中。専門は言語学、伝統工芸。



人は人と繋がることで、世界を知る。人
は、また「もの」と繋がることでも、世
界を知ることができる。

人と繋がるのが好きなひと、もの
と繋がるのが好きなひと、その繋が
りは必ず世界に繋がっていく。素敵なあ
の人は、どんなものを愛しいと思ってい
るのだろう。辛いときにその辛さを癒し
てくれたものがあるのだろうか。その小
さな秘密を知ること、明日に希望がも
てるようになるかもしれない。

人に生きる力を与えてくれる「もの」が持
つ力は、それを作った人の力でもある。こ
の企画は、日々を丁寧に幸せに生きてい
くために、「もの」の大切さを知り、一人
ひとりが愛しいものを探す旅でもある。

京都工芸繊維大学と工芸

大学名に「工芸」がある唯一の国立大学で
す。地元「京都」に立脚し、伝統文化・地場
産業などと深くかかわりながら、工学的学術基
盤を生かした「ものづくり」にかかわる実学中
心の教育研究を展開するとともに、芸術的視点
や先端性・地域性等を総合した「工芸科学」
を志向しており、世界的にも芸術的・学術的
価値の高い美術工芸資料など、オンリーワンの
実績やリソースを生かした諸活動を推進し、広
く社会に貢献しています。

出品者 (敬称略・アルファベット順)



ジャルランリ・ブロッソー

[在京都フランス総領事]



檀ふみ

[女優]



池坊専好

[華道家元池坊次期家元]



熊倉功夫

[静岡文化芸術大学学長]



村田理如

[清水三年坂美術館館長、
並河靖之有線七宝記念財団理事]



高橋英一

[瓢亭・第十四代当主]



谷川俊太郎

[詩人]

京のわざ、日本のわざ

フィルムで見る 京の伝統工芸

【主催】京都府京都文化博物館

12月1日(火)～12月6日(日)

上映時間 13:30～、18:30～(5・6日は13:30～、17:00～)

会場 京都府京都文化博物館
3階フィルムシアター
京都市中京区三条高倉

募集人数 定員170名 観覧料 総合展示入館料
(一般500(400)円、大学生400(320)円) 高校生以下
無料 交通 市営地下鉄東西線・烏丸線「烏丸御
池」駅下車、5番出口より徒歩約3分
問 京都府京都文化博物館
TEL:075-222-0888

京都府では、京都に息づく匠の技を映画で記録してきました。今回の特集では、京都府伝統産業記録映画の中から1968年から81年までに記録された6作品を選び上映します。

フィルムシアターでは、1日2回、京都府が所蔵する日本の古典・名作映画を上映し、シアター前のロビーでは、上映作品に関連する資料や解説パネルなどの展示も行っています。今回は、京都府が60年代後半から80年代にかけて製作した伝統産業・伝統工芸の記録映画を記念上映します。

上映予定映画

『京時絵』(1971年)、『京象嵌』(1972年)など

12月1日(火) 13:30～・18:30～

12月4日(金) 13:30～・18:30～

『截金〈斉田梅亭(日本工芸会)』(1968年・27分)／斉田梅亭(截金師)
『京時絵』(1971年・41分)／本多仁次郎(素地師)、高橋正吉(塗師)、串田誠二(ろ色師)、杉森一朗(蔭絵師)

12月2日(水) 13:30～・18:30～

12月5日(土) 13:30～・17:00～

『京象嵌』(1972年・47分)／丹羽猶三郎(象嵌素地師)、富田喜一郎(象嵌師)、山本章一(象嵌師)
『櫛とかんざし』(1979年・41分)／竹内親日吏(櫛製造師)、定永芳子(花かんざし製造師)

12月3日(木) 13:30～・18:30～

12月6日(日) 13:30～・17:00～

『京くみひも』(1980年・42分)／西田佐太郎(京くみひも師)、松下そめ(同)、大林芳雄(同)
『京扇子／京うちわ』(1981年・45分)／中村清兄(扇屋)、餐庭長兵衛(団扇製造師)

京都府京都文化博物館と工芸

京都文化博物館は昭和63年の開館以来、所属会派を問わず、京都を活動の拠点とした工芸作家を数多く紹介してきました。また、長年にわたって京都府とともに公募展を主催、近年の「京都美術工芸新鋭展」では、次代を担う若手作家の育成にも尽力しています。祇園祭の山鉾の懸想品の数々や、近世の工芸資料なども含め、幅広い京都の工芸の魅力を常に発信しています。

これまでの工芸に関する主な展覧会

「琳派400年記念 現代作家200人による日本画・工芸展 京に生きる 琳派の美」「紅板締——庶民の生活を彩った染織」など



こども未来工芸 ワークショップ

—うるし編—

【主催】こども未来工芸プロジェクト

12月1日(火)

会場 ノートルダム学院小学校

参加者：ノートルダム学院小学校4年生のみなさん(一般参加・見学不可)

※一般の方はご参加いただくことができません

問 インパクトハブ京都

http://kyoto.impacthub.net

TEL:075-417-0115

ファシリテーター

塩瀬隆之 [しおせ・たかゆき]

京都大学総合博物館准教授。京都大学工学部卒業。熟練技能伝承のシステム化研究で博士(工学)。京都大学情報学研究科助教、経済産業省産業技術環境局課長補佐(技術戦略担当)を経て現職。「伝わるとは何か」というコミュニケーションの本質を探究。



「伝統工芸をなぜ残すべきか」を子どもたちに尋ねたとしたら、どんな言葉が返ってくるのでしょうか。もし明確な説明が期待できないとすれば、それは子どもたちの責任ではなくて、子どもたちから伝統工芸品を遠ざけてきてしまった、私たちの現代の暮らし方そのものに原因があるのかもしれない。美術館のガラスケースにおさまっているから貴重なのだと、子どもたちに説明しなければならいのでしょうか。ごくたまにしか開けることのない食器棚の一番奥にしまわれているから大切だと、子どもたちを説得するほかないのでしょうか。

この企画では、子どもたちの日常のなかにいかにして工芸を取り戻すのか、その仕掛けとして、漆塗りの重箱にお気に入りのお菓子を敷き詰めたおもてなしをします。ふたを開けた瞬間のお友達の笑顔を想像しながら、重箱のなかにお気に入りのお菓子や折り紙を敷き詰めるワークショップです。お友達の笑顔を観るためにワクワクしながらお菓子を敷き詰め、お友達と一緒にドキドキしながらふたを開ける。漆塗りの重箱とそんな素敵な時間を共有することができれば、きっと子どもたちはお誕生会やクリスマスパーティのたびに、食器棚の奥にしまわれた重箱のことを思い出すに違いありません。そんな経験をした子どもたちに「伝統工芸をなぜ残すべきか」と尋ねたとしたら、どんな言葉が返ってくるのか楽しみでしたかありません。

KYOTO DESIGN × CRAFTS FAIR

〔主催〕京都精華大学

12月1日(火)~6日(日)

開店時間 11:00~20:00

会場 京都精華大学
サテライトスペース kara-S

http://www.kara-s.jp/

京都市下京区烏丸通四条下ル水銀屋町620
COCON KARASUMA3階

交通 市営地下鉄烏丸線「四条」駅下車、2番出口
四条烏丸西直結。阪急京都線「烏丸」駅下車、
23番・25番出口 住友信託銀行口直結

問 京都精華大学 サテライトスペース kara-S
TEL: 075-352-0844

京都の伝統的な工芸や物作りに、現代の感性とアイデアを加えた商品を kara-S セレクトによって紹介します。普段の生活に取り入れたいくなる、デザイン性の高い商品をそろえました。

出展者

昇苑くみひも（組紐）

花背 WARA（薬細工）

金井悠（陶器）

鈴木まどか（陶器）

大前史（陶器）

hiyomi circle（版画）

本田このみ（版画）

sometae（型染め）

sakamoto osamu（漆）

takenaka kinsai（金彩）

追立睦（漆）

長谷川哲也（陶器）

森紗恵子（爪掻き綴織り）etc...



サテライトスペース kara-S

京都市立芸術大学トークセッション

「次世代の食と工芸」

〔主催〕京都市立芸術大学

12月2日(水)

開催時間 17:00~20:00

会場 京都市立芸術大学ギャラリー
@KCUA（アクア）

京都市中京区押油小路町238-1

募集人数 定員60名前後

参加費 無料（事前申込不要）

交通 市営地下鉄東西線「二条城前」駅下車、2番出口より徒歩約3分

問 京都市立芸術大学

TEL: 075-334-2200



京都市立芸術大学ギャラリー
@KCUA（アクア）

第1部:「食と工芸～過去から未来へ」

永楽陽一〔永楽善五郎 長男〕／園部晋吾〔山ばな平八 茶屋〕／木立雅朗〔立命館大学教授 考古学・文化遺産〕
森野彰人〔清水焼団地副理事長、京都市立芸術大学准教授〕

第2部:「食と工芸～身体、介護、工芸の関係性」

荒金英樹〔愛生会山科病院 外科、「京滋摂食・嚥下を考える会」代表世話人〕／田中麻里〔愛生会山科病院〕
竹浪祐介〔地方独立行政法人 京都市産業技術研究所デザインチーム〕／華井明子〔京都大学医学研究科人間健康科学系専攻 博士課程、日本学術振興会特別研究員、作業療法士〕／森野彰人〔清水焼団地副理事長、京都市立芸術大学 准教授〕

コーディネーター

森野彰人 〔もりの・あきと〕

清水焼団地副理事長、京都市立芸術大学美術学部准教授、IAC（国際陶芸アカデミー）会員。1969年京都に生まれる。2007年京都市芸術新人賞、2012年タカシマヤ美術大賞受賞。主な展覧会に2009年「現代工芸への視点—装飾の力」（東京国立近代美術館）、2013年「新時代のやきものへの挑戦」（滋賀県立陶芸の森・陶芸館）など。

大量生産、大量消費の現代において、日本の文化を支えるヒト、モノ、コトの関係性が失われつつあります。特に「やきもの」は日本の生活文化の中に内包され、人々の生活の中に佇み、息づいてきました。今回は、その関係性において切り離すことの出来ない「食」をキーワードに、ヒト、モノ、コトの関係を再考します。食と器の取り合わせや、場との関係を歴史的観点から掘り下げる第1部と、医学、脳神経科学・作業科学の身体的観点から見直す第2部から「食と工芸」を考えていきます。

京都市立芸術大学と工芸

日本文化として「工芸」を継承し、育む「場」は、人びとの生活の中にあります。大学における「工芸」は、産業、伝統、芸術、生活などの多角的視座を養い、その視座から「工芸」とは何かを思考し続ける「場」であり、更に広い視野で「モノ」作りを原点から考える「場」とであると、京都市立芸術大学では考えています。

「正倉院 宝物復元プロジェクト」 作品展示& パネル展示

〔主催〕京都美術工芸大学

京都伝統工芸館



12月3日(木)~6日(日)

開館時間 10:00~18:00(入場は17:30まで)

会場 京都伝統工芸館 1階ギャラリー

京都市中京区烏丸三条上ル

観覧料 無料

休館日 水曜(祝日の場合は翌日)

交通 市営地下鉄烏丸線「烏丸御池」駅下車、6番出口すぐ

問 京都伝統工芸館

TEL:075-229-1010

「ものづくり」を最高峰から学ぶため、京都美術工芸大学の文化財コースで学ぶ学生を中心に正倉院宝物の復元模造品制作に昨年度から取り組んでいます。昨年度は第66回正倉院展に出品された《檳榔木画箱》を、今年度は正倉院宝物の2種類の伎楽面を一つは木彫刻で「酔胡王」、もう一つは脱乾漆工法で「酔胡従」を学生自ら制作しています。



制作した《檳榔木画箱》



現在制作中の伎楽面

トークセッション

「工芸とデザイン」

〔主催〕京都精華大学

12月4日(金)

開催時間 13:00~15:00

会場 京都精華大学
友愛館アゴラホール

京都市左京区岩倉木野町137

参加費 無料(事前申込不要)

休館日 日曜

交通 市営地下鉄烏丸線「国際会館」駅下車、スクールバス(無料)にて約10分

問 京都精華大学 教務課

TEL:075-702-5244



京都精華大学 友愛館

現代の生活文化に合わせ、伝統的素材と伝統的技術を用いながらモダンなデザイン展開をされている工房の経営者や職人の方々を招き、シンポジウムを開催し、現代生活における伝統的工芸のあり方を探ります。

パネリスト

金谷勉

〔なかや・つとむ〕

(有)セメントプロデュースデザイン 代表取締役／クリエイティブディレクター。

1971年大阪府に生まれる。京都精華大学卒業後、企画制作会社、広告制作プロダクションを経て、1999年「CEMENT PRODUCE DESIGN」を設立。



杉本節子

〔すぎもと・せつこ〕

料理研究家、エッセイスト、公益財団法人奈良屋記念杉本家保存会常務理事兼事務局長。京都府に生まれる。大阪あべの辻調理師専門学校卒業(西洋料理専攻)。同校西洋料理部職員を経て、フランス料理研究家上野万梨子氏に師事。2009年京都府「あけぼの賞」受賞、2014年京都市「和食一京の食文化」特別表彰。著書に2011年『NHK きょうの料理 京町家・杉本家の味 京のおばんざいレシピ』など。



中川周士

〔なかがわ・しゅうじ〕

木工芸職人。

1968年京都府に生まれる。京都精華大学美術学部立体造形卒業と同時に中川木工芸にて父・清司(重要無形文化財保持者)に師事。2003年滋賀県志賀町(現・大津市)に中川木工芸 比良工房を主宰する。



山中源兵衛

〔やまなか・げんべい〕

清課堂七代目当主。

1838年、江戸後期に錫(すず)師として創業。神社仏閣の荘厳品、宮中の御用品を代々製作してきた。現在、多種多様の金属工芸品を販売するほか、清課堂ギャラリーでは、伝統的な金属工芸作家や現代の金属工芸作家の作品を展示・販売し、金属工芸界の活性化を試みる。



職人が案内する 工房見学・体験ツアー

【主催】(公財) 京都文化交流コンベンションビューロー

12月4日(金)／12月5日(土)

開催時間 13:30～、9:30～

集合場所 京都伝統産業ふれあい館

京都市左京区岡崎成勝寺町9番地の1

京都市勤業館みやこめっせ 地下1階

申込・問 (公財) 京都文化交流コンベンションビューロー

参加費 無料

締め切り 11月27日(金)

担当 松本

京都市中京区烏丸夷川上ル 京都商工会議所ビル5階 TEL:075-212-4140 FAX:075-212-4121 MAIL:h-matsumoto@hellokcb.or.jp

※受付時間 月～金 8:45～17:15(土・日・祝休み)



京和傘 日吉屋



京友禅 染匠市川

行程詳細

12月4日(金)

13:30 京都伝統産業ふれあい館 集合▶工房
見学▶17:00頃 ふれあい館着

Aコース

京和傘 日吉屋 (見学・制作体験)

京都に唯一残る老舗和傘製造元。江戸時代から五代にわたり伝統の技を守り続けながらも、和傘の技術を応用した新商品を積極的に開発しています。今回は工程見学と制作体験をお楽しみいただけます。

Bコース

京友禅 染匠市川 (見学)

伝統的な糊糸目による本流の手描き友禅にこだわる老舗工房で着物ができるまでの工程をご覧ください。

12月5日(土)

9:30 京都伝統産業ふれあい館 集合▶工房
見学▶12:30頃 ふれあい館着

Cコース

錦織 光峯錦織工房 (見学・制作体験)

錦織は1200年以上前に中国から日本に伝わった高機(たかばた)という織機で手織された絹の紋織物。今回は、見学と手機による製織を体験いただきます。



錦織 光峯錦織工房

Dコース

京焼・清水焼 洸春窯 (見学・制作体験)

鮮やかな色合いが特徴的な交趾焼(こうちやき)の伝統を継承しつつ、新しい感性を取り入れた器づくりをされている工房で、絵付体験をしていただきます。



京焼・清水焼 洸春窯

「京都文化交流コンベンションビューローと工芸

京都の自然・景観・歴史的文化的資源を活用し、文化・芸術の普及と国内外のコンベンション誘致及び賓客・国際観光客の入洛促進を推進する公益法人。海外メディア向けに伝統工芸品のPR、京都開催する学会・会議の記念品として伝統産業製品を購入する場合の助成金制度など、工芸品の認知向上・普及促進に努めています。今回企画した「職人が案内する工房見学・体験ツアー」をはじめ、京都の伝統工芸品の魅力を「身近に感じていただく」機会を創造し、国内外に発信しつづけることで、伝統工芸品の認知度向上と発展への寄与に努めてまいります。

絶滅危惧の 素材と道具

【主催】京都造形芸術大学

12月4日(金)

開催時間 17:30～20:00

会場 **大学コンソーシアム
京都キャンパスプラザ京都**
4階第二講義室
京都市下京区西洞院通
塩小路下る東塩小路町939

参加費 無料(要事前申込)

共催 COJ(社)ザ・クリエイション・オブ・ジャパン

交通 京都市営地下鉄烏丸線・近鉄京都線・JR各
線「京都」駅下車、徒歩5分

お申し込み <http://takagamine.jp>

問 京都造形芸術大学

TEL:075-791-9122

工芸のあらゆる分野で起こっている素材と道具の危機に対して、「実際の手当て」をさぐるプロジェクト。これまでさまざまな自治体、関係機関、組合などがこの問題に真剣に向き合い、実態の調査を行ってきました。しかし予算の年度の問題、行政単位・業界ごとによるなどの壁や、需要自体の低下があり、努力が実を結びにくくなっています。日本全体で、しかも業界を越えることで、現代ならではの手法で、採算がとれる無理のない、生産及び供給ができる持続可能なエコシステムをどのように構築していくかを考えていくプロジェクトです。今年度は、「塗るもの」(膠、漆、筆、ペンガラなど)をテーマにします。現在の問題と「より上質なものを」をワークショップを通じて理解いただき、その後に問題点やこれからの仕組みを考えていきます。

京都造形芸術大学と工芸

京都造形芸術大学では、絞染や型染、絣織や綴織などの染織技法や、ロクロ、型、手びねり、タタラといった陶芸技法を、通学課程と通信教育課程で学ぶことができます。通学課程では、人気テキスタイルブランド「SOU・SOU」や京都の料理屋若主人の会「京都料理芽生会」とのコラボレーションで、学生の手染め作品の展示販売会や

京料理の展示で使用する器を学生が制作するなど、実践的な取り組みに力を入れています。一方、通信教育課程では、在学生・卒業生たちが日本全国津々浦々で展覧会を開催したり、コンクールで入賞したりと、染織や陶芸の分野で大きな芸術運動を展開しています。

パネリスト

青木芳昭 [あおき・よしあき]

京都造形芸術大学美術工芸学科教授、京都技法材料研究会会長、アカデミア・プラトニカ代表。1953年茨城県に生まれる。1976年ル・サロン名誉受賞。2011年著書に「よくわかる今の絵画材料」(生活の友社)。



近藤都代子 [こんどう・とよこ]

文化庁文化財部伝統文化課主任文化財調査官。

塩瀬隆之 [しおせ・たかゆき]

京都大学総合博物館准教授。京都大学工学部卒業。熟練技能伝承のシステム化研究で博士(工学)。京都大学情報学研究科助教、経済産業省産業技術環境局課長補佐(技術戦略担当)を経て現職。「伝わるとは何か」というコミュニケーションの本質を探究。



和膠、1980年前後

佐藤敬二 [さとう・けいじ]

京都精華大学教授。専門は、デザイン史、伝統産業、素材と技術、意匠学。元京都市産業技術研究所部長。漆・木・竹・金属・陶器など自然素材を使った生活用品の企画とプロダクトデザイン、デザイン評論を手がける。京都府美術工芸ビエンナーレ審査委員長、伝統工芸指定産地委員(審査員)、国民文化祭京都2011「暮らしの文化展」展示委員、現在みやこめっせ伝統産業振興センター理事、意匠学会副会長、日本デザイン学会幹事。

坂井基樹 [さい・もととき]

工芸・編集ディレクター、書籍編集者。工芸および美術の分野、素材に関する書籍編集および、展覧会の企画を行う。主なものに「大地の赤 ペンガラ異空間」(書籍は、LIXIL出版)、「Soil Museum もぐらの館」(越後妻有アートトリエンナーレ 大地の芸術祭)など。



和膠見本、1903年、妻屋膠研究所収蔵品

つくるフォーラム 公募説明会

【主催】COJ（社）ザ・クリエイション・オブ・ジャパン



京都国立博物館
撮影：北嶋俊治

12月5日(土)

開催時間 10:30～16:00

会場 京都国立博物館
平成知新館 講堂＋グランドロビー
京都市東山区茶屋町527

参加費 無料(要事前申込)

公募詳細 <http://takagamine.jp>

交通 京阪本線「七条」駅下車、徒歩7分

※当日は休館期間中となりますので、展示をご覧いただくことはできません。予めご了承ください。

詳細な公募情報 <http://takagamine.jp>

問 COJ

TEL: 03-3573-3339

ファシリテーター

川越仁恵 [かわごえ・あきえ]

日本経済大学経営学部専任講師。専門は工芸技術史、在来産業論。研究成果を社会に役立つプロジェクトとして変換、各地で職人の相談にのり、ともに解決を目指している。東京の伝統工芸職人×デザイナーのコラボレーションによって新作工芸品を生み出すプロジェクト TOKYO CRAFTS&DESIGN を企画し、2013 年度グッドデザイン賞を受賞。2012 年ものづくりフォーラム（経済産業省主催）のジェネラルコーディネータほか、工芸展の審査員、伝統工芸関係のアドバイザーやクリエイティブ・ディレクターも務めている。

「つくってほしいもの」「条件」を公開・公募し、それに応えられるつくり手を広く求めるプロジェクト。地域、素材、デザインなど特徴ある工芸作品が、地方の産業活性化と同時に依頼主（企業）の CSR としても期待ができるものに。「つくるフォーラム」は、「もの」ではなく、ものづくりにおける「こと」をつくり、それらをウェブ上にアーカイブしていくプロジェクトです。わたしたちを取り巻く 21 世紀のライフスタイルに「加えるべき要素」とはなにか？ 改めてつくり手から新たな着想を求めるステージをつくり、発注し、それに触れ使う人々に、何かを思い起こさせる装置をみな様とご一緒につくっていきます。「つかい手」側が「つくってほしいもの」の具体的なイメージに至らないときは、「繋ぎ手」が社会的効果を生む魅力的なプランを提案してくれることでしょう。

1 つくるフォーラムとは？

「使う目的を明らかに」したさまざまな「つくる」公募を行うことで、ものづくりの活性化を促す、21 世紀的・つくり手支援のかたちです。いままで水面下で行われてきた「お誂え」を、公募し「公開お誂え＝現代の御用達をつくるコンペティション」とし、社会が開かれたものづくりを行っていくことを推進するプロジェクトです。お誂えをしたい使い手にとっては、発注したくてもこちらの条件を満たしつつ想像力溢れる名品を生むつくり手に出会う機会は、限られています。つく

り手にとっても、条件はあるものの単なる OEM ではなく、自由な発想を汲み取ってくれ、創造を共に楽しむ発注者に出会う機会は、限られています。つくるフォーラムでは、発注者がはっきりしている、販売先が確保されているというアドバンテージがあります。これまでの公的な支援体制では、作ってしまってから見本市に出して買い手を探すシステムが多く、せっかく良品を生み出しても販売に直結しにくいことが難点でした。つくるフォーラムではその弱点を乗り越え、つくり手には販売の心配が不要の良質な案件だけを扱います。現代の御用達となるクリエイターを公開募集するプロジェクトです。

2 京都国立博物館における「つくるフォーラム」公募説明会について

各公募案件の趣旨・希望する内容の説明会を 2015 年 12 月 5 日（土 ※休館日）、京都国立博物館・平成知新館講堂 & グランドロビーにて行います。募集者が何をイメージし、どんな創作を求めているか。募集者となる企業各社から、直接説明申し上げ、募集を呼びかけます。この日は休館日のため入館には事前申請が必要です。WEB での参加申し込みをお願いいたします。なお、この説明会に参加されない方も、書類送付だけでも応募できます。応募書類の募集締め切りは 12 月 25 日です。

当日の流れ

11:00～12:00

講堂にて、募集者となる企業が趣旨と概要説明を行います。休館日のため入館には事前申請が必要です。WEB での申し込みをお願いいたします。応募の意思のない一般観覧者のご参加も大

歓迎です。

13:00～14:00

グランドロビーに設置された各案件ブースにて質疑応答。15 分入れ替え制。

14:00～16:00

各ブースにて、事前に応募書類をいただいた方のうち、希望者には個別打合せを行います。ポートフォリオをご持参いただき、お一人ごとに打合せ時間を組むことができます。

募集案件

- 「京博ブランド」として世界を魅了できる、日本工芸の粋を募集します。
第一回募集は「携帯用ミントケース＝現代の印籠・振出・薬入れ」／全国のつくり手募集
- 島津製作所「勤続 25 年表彰記念品」を募集します／京都のつくり手募集
- ピーエス「こんなものが室内に欲しかった。」協働製作者募集／全国のつくり手募集

特別講演会

愛しむ工芸 詠えの歴史

〔主催〕京都国立博物館



12月5日(土)

※当日は休館期間中となりますので、展示をご覧いただくことはできません。予めご了承ください。

開催時間 13:30～15:00

会場 京都国立博物館 平成知新館
講堂

京都市東山区茶屋町527

募集人数 定員200名

参加費 無料(要事前申込)

交通 京阪本線「七条」駅下車、徒歩7分

お申し込み <http://takagamine.jp>

問 京都国立博物館

TEL: 075-531-7504

金属工芸において、「出来合いの物」と、発注者ないし使用者が明確になっている「詠え物」の関係は非常に複雑である。特に刀剣は、実用目的以外にも贈答や奉納を目的として生産され、その背景は様々ではない。また、使用にあたって着装者ごとにそれぞれの好みを反映した「拵」と呼ぶ保持具を必須としてきた。これらの実例を踏まえて、中世から近世末にかけての刀剣の発注と製作の背景を解明していく。

ファシリテーター

末兼俊彦 [すえかね・としひこ]

京都国立博物館学芸部企画室研究員。1978年山口県生まれ。京都大学大学院人間・環境学研究科博士後期課程中退。九州国立博物館アソシエイトフェローを経て平成24年より現職。専門は金属工芸史。論文に「名物「島津正宗」について」『学芸』37号、「木下家と桃山時代の鍔金具」『岡山に生きた豊臣家～備中足守藩木下家資料～』(岡山シティミュージアム)など。展覧会に、2014年「京都国立博物館 特集陳列『永藤一コレクション』」、2012年「九州国立博物館 特別展覧会『国宝の名刀』」(ふくやま美術館との共催展)など。

京都国立博物館と工芸

京都国立博物館では、陶磁・染織・金工・漆工と分野ごとの専用展示室があり、日本と東洋の工芸の粋をより広く、より深く鑑賞することができます。特別展覧会として、2010年「高僧と袈裟」、2013年「魅惑の清朝陶磁」を開催するほか、各分野での特集陳列も随時開催しています。2015年の特別展覧会「琳派 京を彩る」では、京博ナビゲーターによるワークショップ「琳派デザインに挑戦」を連日実施しました。美術と工芸という枠を越えた琳派の世界を多くの方にお楽しみいただきました。

上賀茂神社特別参拝

〔主催〕COJ(社)ザ・クリエイション・オブ・ジャパン

12月5日(土)

開催時間 16:00～17:00

会場 賀茂別雷神社(上賀茂神社) 客殿

京都市北区上賀茂本山339

募集人数 40名、要事前申込・先着順

参加費 3,000円

主催 100年後の工芸のために普及啓発実行委員会・京都市美術館

特別協力 世界遺産 賀茂別雷神社(上賀茂神社)

交通 バス停「上賀茂神社前」下車

お申し込み <http://takagamine.jp>

問 COJ

TEL: 03-3573-3339

MAIL: info@takagamine.jp



上賀茂神社

トークセッション参加者の方を対象に、狛犬を影絵で縫い止めた日本で唯一の「影狛」(狩野永徳筆とされる)の特別拝観を当日16:00より開催します。検皮奉納付きです。

工芸における 琳派コードを読み解く トークセッション in 上賀茂神社

〔主催〕京都市美術館

12月5日(土)

開催時間 17:00～18:00(トークセッション)

会場 賀茂別雷神社(上賀茂神社) 客殿

京都市北区上賀茂本山339

募集人数 80名、当日16:30から客殿前において先着順にて受付 参加費 無料

主催 100年後の工芸のために普及啓発実行委員会・京都市美術館

特別協力 世界遺産 賀茂別雷神社(上賀茂神社)

交通 バス停「上賀茂神社前」下車

問 京都市美術館 TEL: 075-771-4107 FAX: 075-761-0444 MAIL: bijutsukan@city-kyoto.jp

2016年1月、京都市美術館にて開催の「琳派降臨——近世・近代・現代の琳派コードを巡って」展のプレイベントを行います。

ファシリテーター・キュレーター

尾崎真人 [おざき・まさと]

1952年栃木県生まれ。早稲田大学大学院修士修了。板橋区立美術館学芸員を経て、京都市美術館学芸課長。専門は、日本美術史。「日本の前衛美術」を研究。1992～93年にハイデルベルク大学客員教授。著書に『読んで見る長谷川利行 視覚都市・東京の色—池袋モンパルナス そぞろ歩き』、『池袋モンパルナスそぞろ歩き 熊谷守一篇』(オクターブ)、展覧会に、2005年「修羅と菩薩のあいだで—もうひとりの人間像—」、2008年「京都と近代 日本画特別展:文展・帝展・新文展 100年の流れのなかで」(京都市美術館)など。

榊原吉郎 [京都市立芸術大学名誉教授]

福井麻純 [細見美術館主任学芸員]

「正倉院宝物復元プロジェクト」 トークセッション

〔主催〕京都美術工芸大学

12月5日(土)

開催時間 16:30～18:00

会場 京都伝統工芸館 6階

京都市中京区烏丸三条上ル

市営地下鉄烏丸線「烏丸御池」駅下車、
6番出口すぐ

募集人数 定員60名

参加費 無料

問 京都伝統工芸館

TEL:075-229-1010

「正倉院宝物復元プロジェクト」を学生
たちに指導した村上隆教授がコーディネーターとなり、宮本貞治教授、建田良策准教授に河野元昭学長がパネリストとして、今後の美術工芸についてそれぞれの思いを発信します。

コーディネーター

村上隆 [むらかみ・りゅう]

京都美術工芸大学教授。1953年京都生まれ。東京藝術大学大学院美術研究科修了。京都国立博物館学芸部長、奈良文化財研究所上席研究員を歴任し、2014年から現職。専門は、歴史材料科学、文化財学、博物館学。第8回ロレアル国際賞「色の科学と芸術賞金賞」、第1回「石見銀山文化賞」ほか受賞。著書に、『金・銀・銅の日本史』（岩波新書）、『金工技術』（至文堂）など。



河野元昭

〔京都美術工芸大学学長、東京大学名誉教授、秋田県立近代美術館名誉館長〕



宮本貞治

〔京都美術工芸大学教授〕



建田良策

〔京都美術工芸大学准教授〕



京都美術工芸大学／京都伝統工芸館と工芸

京都美術工芸大学は日本で唯一「工芸学部」を設置する大学として、2012年4月に開学。伝統工芸学科の伝統工芸コースでは、陶芸・木工・漆芸・木彫刻が学べます。京都伝統工芸館では、グループ校で日本で唯一伝統工芸の技を伝え

る京都伝統工芸大学校の卒業作品、プロの工芸作家の作品などを常設展示しているほか、高校生を対象とした工芸甲子園を2009年より毎年開催しています。

鷹峯ナイト

〔主催〕インパクトハブ京都

12月5日(土)

開催時間 18:30～21:00

会場 インパクトハブ京都

京都市上京区相国寺門前町682

Impact Hub Kyoto

<http://kyoto.impacthub.net>

募集人数 定員60名前後(先着順)

参加費 3,000円(要事前申込)

交通 市営地下鉄烏丸線「鞍馬口」駅下車、徒歩3分

1番出口より南(今出川通、同志社大学方面)へ歩き、
デイリーヤマザキ(コンビニ)を越えてすぐ
※およその到着時間つき参加申込フォームにご記入い
ただき、多数の場合抽選となります

お申し込み <http://takagamine.jp>

問 インパクトハブ京都

TEL:075-417-0115



道場としてアクティブな人が集う京都インパクトハブの美しい空間ならではの懇親会。21世紀鷹峯フォーラムの1週間で締め、
「なにかが産まれる」有益な時間。

インパクトハブ京都とは

Impact Hub Kyotoは、いまの社会・世界を変えたいと強く欲する人たちが集い、学び合い、新たな行動を起こす場所です。「社会の変革」「人と自然との関係の変革」「自分自身の変革」を促し、この三つの変革が渦巻きあうところで、これまでにない新しい道、Art of Livingを共に創り出し、極めていく環境を提供しています。

2015年度21世紀鷹峯フォーラム 第1回 in 京都

メインシンポジウム

「100年後に残る 工芸のために」

〔主催〕

「100年後に残る工芸のために」普及啓発実行委員会
オールジャパン工芸連携 京都 東京 金沢 実行委員会



国立京都国際会館

12月6日(日)

開催時間 13:00～16:30

会場 京都国際会館 Aルーム

京都市左京区宝ヶ池

募集人数 傍聴席2階 220席

参加費 無料（要事前申込） 交通 市営地下鉄烏丸線「国際会館」駅下車、徒歩5分

傍聴申し込み <http://takagamine.jp>

問 オールジャパン工芸連携事務局(COJ)

TEL: 03-3573-3339

京都、そして日本で工芸に関わる多種多様な方たちが集まり、「100年後の工芸のために」意見を交換していくものです。大きな特徴は、すべての出席者から事前に寄せられたアンケートの結果と、その場で投げかける3つの問いとその答えから、同時進行で参加者全員が考えていく新しい形式のシンポジウムであることです。最後に、21世紀鷹峯フォーラムで開催された工芸にまつわるアクティビティの成果とも合わせ、「京都提言」を発表し、「100年後の工芸のために」、私たちに何ができるのか、そして何をすべきかを共有し、これからの工芸に役立てていただきます。

ファシリテーター

塩瀬隆之

〔しおせ・たかゆき〕

京都大学総合博物館准教授。京都大学工学部卒業。熟練技能伝承のシステム化研究で博士（工学）。京都大学情報学研究科助教、経済産業省産業技術環境局課長補佐（技術戦略担当）を経て現職。「伝わるとは何か」というコミュニケーションの本質を探究。



柳原正樹

〔やなぎはら・まさき〕

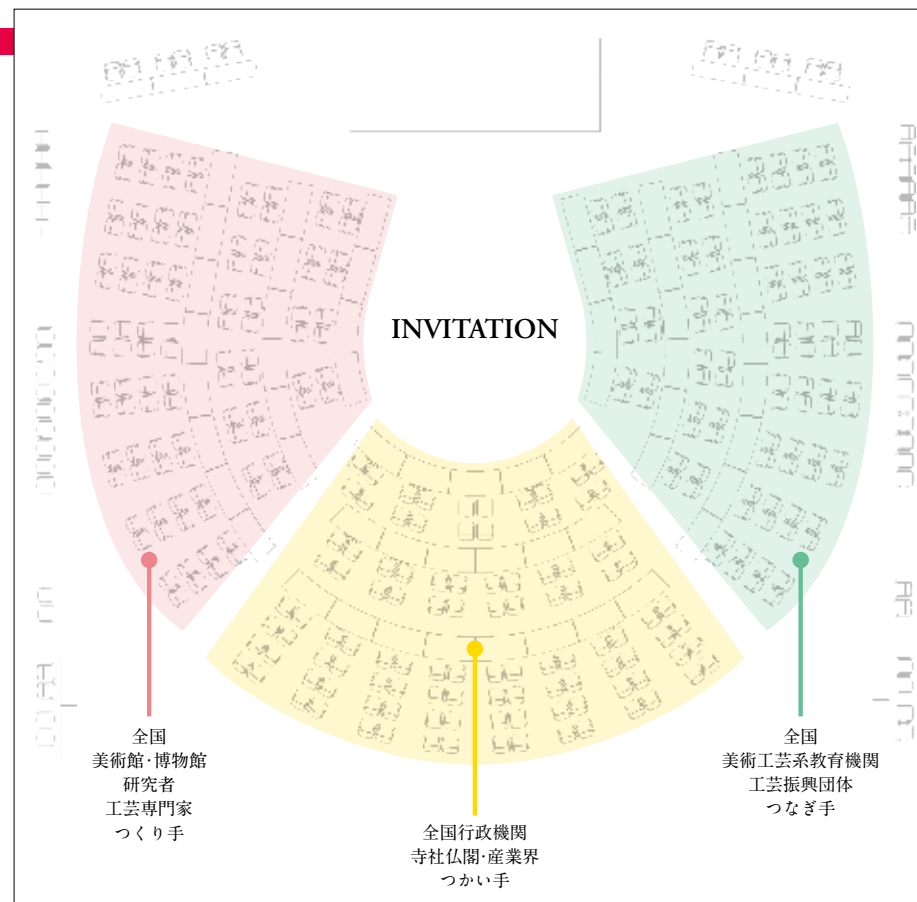
京都国立近代美術館館長。1978年富山県立近代美術館の開設準備に携わり、2008年「日展100年」、1999年「毛利武士郎」などの展覧会を担当。その後、富山県水墨美術館副館長、館長を経て、現職。専門は彫刻と日本画。



林田英樹

〔はやしだ・ひでき〕

一般社団法人ザ・クリエイション・オブ・ジャパン代表理事、日本工芸会 理事長。京都大学法学部卒業。文化庁次長、文部省学術国際局長を経て、文化庁長官に就任。退官後、国立科学博物館長、東宮侍従長を歴任、東宮大夫、国立新美術館長を歴任。



1階：各界リーダーズ＋工芸有識者 3ブロック

2階：会議傍聴席 220席

13:00-13:10 祝辞 文化庁長官 青柳正規

13:10-14:40 円卓会議 会場への3つの問い
ファシリテーター 塩瀬隆之〔京都大学総合博物館 准教授〕

14:45-15:15 休憩 | 30分 記入用紙回収、集計

15:15-16:00 京都参加団体発表 | 2015成果共有——京都から東京へ

16:00-16:20 レビュー——会場からの答え
塩瀬隆之〔京都大学総合博物館 准教授〕

16:20-16:30 第1回 京都提言発表
柳原正樹〔京都国立近代美術館 館長〕

16:30-16:40 オールジャパン工芸連携に向けて
林田英樹〔ザ・クリエイション・オブ・ジャパン 代表理事〕

「工芸」コレクションが充実
美術館・博物館案内

工芸の都にふさわしい、町の至るところに、工芸コレクションが充実した美術館・博物館、そして個人作家の記念館が存在する。作品の数々に加え、そのコレクションが誕生した歴史も魅力あるものばかりです。

※「主な所蔵品」はその多くは現在展示されていません。それぞれの館の現在の展示情報を確認の上、足をお運びください

map C ▶ p.21

何必館・京都現代美術館

かひつかん・きょうとげんだいびじゅつかん

所在地 〒605-0073 京都市東山区祇園町北側271
バス停「祇園」下車、徒歩2分

日本画家の村上華岳、洋画家の山口薫、陶芸をはじめ美術工芸のあらゆる分野で活躍した作家の北大路魯山人の作品を中心に、国内外から近現代の絵画、工芸、写真など幅広い作品を収蔵し、年に数回企画展を開催しています。

開催中の展覧会 何必館コレクション 魯山人と遊ぶ展 9月19日(土)～12月13日(日)

開館 10:00～18:00(入館は17:30まで) **休館日** 月曜(祝日の場合は開館) **入場料** 一般1,000円、学生800円 **問** TEL:075-525-1311

主な収蔵品 北大路魯山人《つばき鉢》1938年／北大路魯山人《備前旅枕花入》1958年



〔上〕何必館・京都現代美術館 外観
〔下〕北大路魯山人《つばき鉢》



map C ▶ p.21

京都国立近代美術館

きょうとこくりつきんだいびじゅつかん

所在地 〒606-8344 京都市左京区岡崎円勝寺町
バス停「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車すぐ
※専用駐車場はございません

絵画、彫刻から工芸、写真まで、幅広い分野の日本と欧米の近現代美術の代表作を所蔵。また、木工、金工、染織、陶芸を含む「芝川照吉コレクション」、河井寛次郎約430点の「川勝コレクション」などを一括して収集しています。

開催中の展覧会 第4回コレクション展 特集展示：京都の工芸 10月7日(水)～12月6日(日)

開館 9:30～17:00(入館は16:30まで) **休館日** 月曜(祝日の場合は翌日) **入場料** 一般430(220)円、大学生:130(70)円 ※()内は20名以上の団体料金

問 TEL:075-762-1711 FAX:075-752-0509

主な収蔵品 服部峻昇《漆屏風「未来への旅立」》1973年／森口邦彦《友禅訪問着「網代畳模様」》1968年／麻田脩二《WORK-G》1971年／坪井明日香《歓楽の木の実》1973年／河井寛次郎《打葉扁壺》1962年



〔上〕京都国立近代美術館 外観
〔下〕森口邦彦《友禅訪問着「網代畳模様」》

map E ▶ p.24

高麗美術館

こうらいびじゅつかん

所在地 〒603-8108 京都市北区紫竹上岸町15
バス停「加茂川中学前」下車、徒歩1分

鄭詔文(チョン・ジヨムン) が日本で収集した朝鮮古美術品約1700点を所蔵し、1988年開館。高麗青磁や朝鮮白磁の逸品のほか、木工品、絵画、青銅器や金銅製品、考古・民俗資料や仏教美術など、そのコレクションは多岐にわたっている。

開館 10:00～17:00(入館は16:30まで)

休館日 月曜(祝日の場合は翌日)

入場料 一般500(400)円、高・大学生400(320)円、65歳以上400円

※()内は20名以上の団体料金 ※特別展は別料金

問 TEL:075-491-1192 FAX:075-495-3718

主な収蔵品 《白磁壺》朝鮮時代(17世紀後半)／《鉄砂帆船魚文壺》朝鮮時代末期／《華角三層櫥》朝鮮時代(19世紀後半)／《鉄造如来坐像》統一新羅末～高麗時代初(10世紀頃)／《華角箱》朝鮮時代(19世紀前半)



《鉄砂帆船魚文壺》



《華角三層櫥》

map C ▶ p.21

並河靖之七宝記念館

なみかわやすゆきしっぽうきねんかん

所在地 〒605-0038 京都市東山区三条通北裏白川筋東入堀池町388 市営地下鉄東西線「東山」駅下車、1番出口より徒歩3分

明治期から昭和初期にかけて活躍した日本を代表する七宝作家・並河靖之の、世界的にも貴重な七宝作品130点余りを収蔵。建物は旧自宅兼工房で、建物と庭園は文化財・名勝などに指定されています。

開催中の展覧会 秋季特別展 並河七宝の古雅 9月5日(土)～12月13日(日) **開館** 10:00～16:30(入館は16:00まで) **休館日** 月・木曜(祝日の場合は翌日)、夏季、冬季 **入場料** 大人600(500)円、大学生・70歳以上500(400)円、中・高校生300(200)円 ※()内は20名以上の団体料金 **問** TEL

／FAX:075-752-3277 **主な収蔵品** 並河靖之、国登録有形文化財《藤草花文花瓶》／並河靖之、国登録有形文化財《平安神宮風景文小蓋壺》／並河靖之、国登録有形文化財《菊紅葉宿禽文花瓶》／並河靖之、国登録有形文化財《紫陽花蝶文丸皿》



〔上〕並河靖之七宝記念館 外観
〔下〕国登録有形文化財《藤草花文花瓶》

map C ▶ p.21

野村美術館

のむらびじゅつかん

所在地 〒606-8434 京都府京都市左京区南禅寺下河原町61 バス停「南禅寺・永観堂」下車、徒歩約5分

得庵(とくあん)と号し茶の湯や能楽などに親しんだ実業家・野村徳七(とくしち/1878-1945)のコレクションをもとに1984(昭和59)年開館。茶道具・能面・能装束をはじめ得庵の遺作など、重要文化財7点、重要美術品9点を含む約1700点を所蔵しています。

開催中の展覧会 没後70年 野村得庵展—ある近代数寄者の軌跡— 9月5日(土)～12月6日(日) **開館** 10:00～16:30(入館は16:00まで) **休館日** 月曜(祝日の場合は翌日)、夏季、冬季 **入場料** 大人700円、高・大学生300円、小・中学生200円、団体・70歳以上500円 **問** TEL:075-751-0374 MAIL: nomurams@nomura-museum.or.jp **主な収蔵品** 《種村肩衝茶入》南宋時代(12～13世紀)／《利休大棗》桃山時代(16世紀)／《練上志野茶碗 銘猛虎》桃山時代(17世紀)／《御本立鶴茶碗》朝鮮王朝時代(17世紀)／樂道入《赤楽茶碗 銘若山》江戸時代(17世紀)



[上] 野村美術館 外観
[下] 《御本立鶴茶碗》

map D ▶ p.22

樂美術館

らくびじゅつかん

所在地 〒602-0923 京都市上京区油小路通一条下るバス停「堀川中立売」・「一条戻橋」下車、徒歩約3分

1978年、樂家十四代吉左衛門・覚入によって、樂焼窯元・樂家に隣接する地に開館。樂歴代作品を中心に、450年にわたり伝来した茶道工芸美術品、関係古文書などが収蔵されています。また、実際に作品に触れることのできる鑑賞会・茶会も催されています。

開催中の展覧会 秋期特別展 琳派400年記念 光悦ふり 光悦名碗と様式の展開 9月5日(土)～12月23日(水・祝)
開館 10:00～16:30(入館は16:00まで)
休館日 月曜(祝日の場合は開館)
入場料 一般900円～
問 TEL:075-414-0304



三代道入作
《黒楽茶碗 青山》



初代長次郎作《二彩獅子》

主な収蔵品 初代長次郎作《二彩獅子》重要文化財 1574年／初代長次郎作《黒楽茶碗 万代屋黒》利休所持 万代屋宗安家伝来 藤村庸軒所持／本阿弥光悦作《白楽茶碗 冠雪》益田鈍翁旧蔵／樂家三代道入作《黒楽茶碗 青山》加賀七種之内 重要美術品／樂家十五代吉左衛門《焼貫黒楽茶碗 滲雲に浮かんで》2003年

map E ▶ p.25

京都工芸繊維大学 美術工芸資料館

きょうこうげいせんいだいがく びじゅつこうげいしりょうかん

所在地 〒606-8585 京都府京都市左京区松ヶ崎橋上町市営地下鉄烏丸線「松ヶ崎」駅下車、徒歩約8分

本大学の前身の一つ・京都高等工芸学校の収蔵品を基盤に、開館後はポスターコレクションの充実に力を入れています。収蔵品は、絵画、彫刻、金工、漆工、陶磁器、繊維品、考古品など多岐にわたる約41,000点。

開催中の展覧会 私の好きな工芸 11月30日(月)～12月3日(木)／生誕100周年記念建築作品展 増田友也 10月26日(木)～12月12日(土)／GRAPHIC ASSEMBLAGE by TAMOTSU YAGI—八木保のアッサンプラージュ 11月23日(月)～11月28日(土) **開館** 10:00～17:00(入館は16:30まで) **休館日** 日曜・祝日 **入場料** 一般200円、大学生150円、高校生以下無料(京都・大学ミュージアム連携)



京都工芸繊維大学美術工芸資料館 外観

所属大学の学生・院生は学生証の提示により無料)
問 TEL:075-724-7739
主な収蔵品 浅井忠図案、杉林古香制作《朝顔時絵手箱》／浅井忠《梅図花生》／ルイス・コンフォート・ティファニー《植物模様花瓶》／ジョルナイ工房《エオシン釉花瓶》／ブリマヴェラ工房《陶磁製婦人像》

map C ▶ p.21

京都国立博物館

きょうこくりつはくぶつかん

所在地 〒605-0931 京都市東山区茶屋町527 京阪本線「七条」駅下車、徒歩7分

明治の赤煉瓦造りの「明治古都館」(当面の間、閉室中)と2014年にリニューアルオープンした「平成知新館」という趣の異なった空間に、名品の数々を展示。工芸作品は陶磁、染色、塗工というは分野ごとの専用展示室でじっくりと作品を鑑賞できます。

開館 9:30～17:00(入館は16:30まで)、特別展覧会会期中のみ9:30～18:00。この期間の毎金曜は20:00まで開館



京都国立博物館 外観

休館日 月曜(祝日・休日の場合は開館し、翌火曜休館)
入場料 展覧会により異なる
問 TEL:075-525-2473(テレホンサービス)

map D ▶ p.23

京都造形芸術大学 芸術館

きょうとぞうけいげいじゅつだいがく げいじゅつかん

所在地 〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山2-116 京都造形芸術大学 人間館ギャルリ・オーブ2階 バス停「上終町京都造形芸大前」下車すぐ

京都造形芸術大学の収蔵作品を常設展示する博物館。その主なものは、考古学者・江上波夫氏が収集したシルクロードの工芸品をはじめ、縄文土器や土偶、豊原国周の浮世絵、伏見人形など、およそ1360点にのぼる。

開催中の展覧会 団十郎くんと団十郎さん——大江直吉、豊原国周の浮世絵版画・伏見人形コレクション— 10月26日(月)～12月12日(土)
開館 10:00～17:00(入館は16:40まで)



京都造形芸術大学 芸術館 内観 撮影:渡邊修

休館日 日曜、祝日、春季・夏季休暇中、大学入試期間中(学内立入禁止)
入場料 無料
問 TEL:075-791-9182

map C ▶ p.20

京都府京都文化博物館

きょうとふきょうとぶんかはくぶつかん

所在地 〒604-8183 京都市中京区三条高倉

市営地下鉄東西線・烏丸線「烏丸御池」駅下車、5番出口より約徒歩3分

京都の歴史と文化をわかりやすく紹介する総合的な文化施設。「京の歴史」「京のまつり」「京の至宝と文化」の3つのゾーンに分かれた総合展示室では、「ほんまもん」の京都ゆかりの優品を紹介しています。

開館 総合展示：10:00～19:30（入館は19:00まで）／特別展：10:00～18:00（入館は17:30まで）、金曜は～19:30（入館は19:00）／別館：10:00～19:30（入館は19:00まで）**休館日** 月曜（祝日の場合は翌日）**入場料** 総合展示：一般500（400）円、大学生400（320）円、高校生以下無料／特別展は別途料金が必要です ※（ ）内は20名以上の

《色絵六角段重》



団体料金 **問** TEL：075-222-0888 FAX：075-222-0889
主な収蔵品 《色絵六角段重》江戸時代／青木木米《白磁木瓜形水注》江戸時代／《松皮菱草花模様辻が花染梨》桃山～江戸時代初期／《明治の洋食器（染付草花模様）》1879（明治12）年／《薄納戸細地滝に岩松桜腰文様単衣》江戸時代
※ただし、京都府立総合資料館蔵（京都文化博物館管理）

map C ▶ p.21

清水三年坂美術館

きよみずさんねんざかびじゅつかん

所在地 〒605-0862 京都市東山区清水寺門前産寧坂北入清水三丁目337-1 バス停「清水道」より徒歩7分

※専用駐車場はございません。近隣の有料駐車場施設をご利用ください ※三年坂は土・日・休日の10:00～17:00の間、車両通行禁止となりますのでご注意ください

明治を中心に幕末・大正時代の蒔絵、金工、七宝、焼き物、彫刻などを収集・展示しています。また、海外に流出した幕末・明治の美術品の収集に努め、今や再現不可能な超絶技巧を尽くした名品も多くあります。

開催中の展覧会 よそおいの細密工芸 11月21日（土）～2016年2月14日（日）**開館** 10:00～17:00（入館は16:30まで）**休館日** 月・火曜（祝日は開館）**入場料** 大人800（640）円、大・高・中学生500（400）円 ※（ ）内は20名以



清水三年坂美術館 外観

上の団体料金 **問** TEL：075-532-4270

主な収蔵品 並河靖之《蝶図瓢形花瓶》／正阿弥勝義《群鶏図香炉》／白山松哉《日月鳥鷺図蒔絵箱》／旭玉山《葛に蜘蛛図手文庫》／《孔雀図屏風》

map D ▶ p.22

中信美術館

ちゅうしんびじゅつかん

所在地 〒602-8048

京都市上京区下立売通油小路東入西大路町136-3

バス停「堀川下立売」下車、徒歩2分

※専用駐車場はございません

2009（平成21）年に開館した、南欧風の外観を持つ美術館。美術の創作活動を奨励するため、毎年、京都を基盤に活躍する絵画・彫刻・工芸分野の芸術家3名に「京都美術文化賞」を贈呈し、その翌年には受賞記念展を開催しています。

開催中の展覧会 石本正新作展「旅」 10月28日（水）～12月10日（木）

開館 10:00～17:00（入館は16:45まで）

休館日 月曜 **入場料** 無料



中信美術館 展示室

問 TEL：075-417-2323 FAX：075-451-2005

主な収蔵品 江里佐代子《截金小笥 瑞象「金の雨」「銀の雨」》／服部俊昇《螺鈿飾箱「麦秋」》／樂吉左衛門《焼貫黒樂茶碗》／八代清水六兵衛《輝白陶姿25-A》／三浦景生《白牡丹》

map C ▶ p.21

細見美術館

ほそみびじゅつかん

所在地 〒606-8342 京都市左京区岡崎最勝寺町6-3

バス停「東山二条・岡崎公園口」下車、徒歩約3分

※専用駐車場はございません

大阪の実業家・故 細見良（初代古香庵）にはじまる細見家三代の蒐集品を展示。コレクションは、日本の美術工芸のほとんどすべての分野・時代を網羅し、なかでも根来や茶の湯釜、桃山の茶陶や七宝工芸などに優品が多くあります。

開催中の展覧会 細見コレクション名品選 麗しき日本の美—雪・月・花— 11月28日（土）～2016年1月24日（日）

開館 10:00～18:00（入館は17:30まで）

map B ▶ p.12

京セラ美術館

きょうせらびじゅつかん

所在地 〒612-8501

京都府京都市伏見区竹田鳥羽殿町6番地

京セラ本社ビル

バス停「パルスプラザ前」下車すぐ

「ファインセラミックス」による、美しい光沢と独特の透光性が特徴の美術工芸品「玉磁（ぎょくじ）」、中国・清時代の乾隆ガラスや鼻煙壺、ピカソの銅版画、現代日本画を常設展示しています。

開催中の展覧会 特別展「神々への華麗なる献上品 八坂神社名宝展」11月3日（火）～12月6日（日）

※10月29日～12月9日までは常設展示を行いません

開館 10:00～17:00（入館は16:30まで）

休館日 土・日曜、祝日、特別休館日（特別展会期中は毎日開館）



細見美術館 外観

休館日 月曜（祝日の場合は翌日）

入場料 展覧会により異なる ※常設展はございません

問 TEL：075-752-5555



特別展開催中の京セラ美術館

入場料 無料

問 TEL：075-604-3518

主な収蔵品 平山郁夫《平等院》／東山魁夷《山霧幽玄》／上村松篁《暖日》／橋本明治《夏座敷》／舟越保武《杏》／中村晋也《ミゼレーレII》

map C ▶ p.21

京都市美術館

きょうとしびじゅつかん

所在地 〒606-8344

京都市左京区岡崎円勝寺町124（岡崎公園内）

バス停「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車すぐ

※専用駐車場はございません。美術館北側の岡崎公園駐車場、又は美術館西側のみやこめっせ駐車場をご利用ください。

1933（昭和8）年の設立以来、近現代美術の鑑賞・発表のための西日本最大の舞台のひとつとして大きな役割を果たしてきました。また、明治以降の京都を中心とした美術・工芸品を収蔵しています。

開催中の展覧会 フェルメールとレンブラント：17世紀オランダ黄金時代の巨匠たち—世界劇場の女性— 10月24日（土）～2016年1月5日（火）

開館 9:00～17:00（入館は16:30まで）

休館日 月曜（祝日の場合は開館）

入場料 展覧会により異なる

問 TEL：075-771-410 FAX：075-761-0444

主な収蔵品 今井政之《うつぼかずら》1982年／五代 清水六兵衛（六和）《大礼磁仙果文花瓶》1926年／八木一夫《円》1978年／小合友之助《染額雙馬図》1935年／堂本漆軒《花器烏瓜図》1935年

map B ▶ p.19

京都市立芸術大学芸術資料館

きょうとしりつげいじゅつだいがくげいじゅつしりょうかん

所在地 〒610-1197

京都市西京区大枝沓掛町13-6

バス停「芸大前」下車すぐ。

京都市立芸術大学 中央棟1階

1880(明治13)年に開設された京都府画学校以来、100年を越す歴史を受け継いだ資料館です。京都と本大学の歴史に根差した調査研究を行い、学生の卒業作品と美術工芸に関する参考資料を収蔵しています。

開催中の展覧会 第5期 京都市立美術大学と陳列館 資料収集史戦後編 10月31日(土)～12月6日(日)

開館 9:00～17:00(入館は16:30まで)

休館日 月曜(祝日の場合は翌日)

入場料 無料

問 TEL: 075-334-2232 FAX: 075-333-8533

map D ▶ p.22

相国寺承天閣美術館

しょうこくじょうてんかくびじゅつかん

所在地 〒602-0898

京都市上京区今出川通烏丸東入

市営地下鉄烏丸線「今出川」駅下車、またはバス停「同志社前」下車、徒歩1分

1392(明徳3)年に開山し足利義満によって創建された相国寺に伝来する文化財を保存・研究及び展示する美術館。中近世の墨蹟・絵画・茶道具などを中心に、国宝5点、重要文化財143点を含む多くの文化財が展示されています。

開催中の展覧会 岩澤重夫展—日本の心を風景に描く— 10月3日(土)～2016年3月21日(日) **開館** 10:00～17:00(入館は16:30まで) **休館日** 不定休 **入場料** 展覧会により異なる **問** TEL: 075-241-0423 FAX: 075-212-3585 **主な収蔵品** 重要美術品《古芦屋松竹梅地紋釜》、金



森宗和所持、箱書覚々斎宗左／《古瀬戸米市手茶入 銘米》、箱書 内 小堀宗本・外 河路善八／野々村仁清《御室焼色絵桐波文茶碗》、箱書金森宗和／蒲生氏郷《竹茶杓》、筒 山田宗偏、箱貼札 古筆極／伊藤若冲、重要文化財《鹿苑寺大書院旧障壁画》(葡萄小禽図床貼付、月夜芭蕉図床貼付)

索引

あ

青木芳昭	44
秋元雄史	30
荒金英樹	39
池坊専好	34
インパクトハブ京都	37, 51
永楽陽一	39
尾崎真人	49

か

金谷勉	41
何必館・京都現代美術館	54
上賀茂神社	49
川越仁恵	46
木立雅朗	39
京セラ美術館	59
京都芸術センター	60
京都工芸繊維大学	33, 34
京都工芸繊維大学 美術工芸資料館	34, 57
京都工芸繊維大学 60周年記念館	33
京都国際会館	52
京都国立近代美術館	28, 54
京都国立博物館	46, 48, 57
京都市美術館	30, 49, 59
京都市立芸術大学	39
京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA (アクア)	39, 60
京都精華大学	32, 38, 41
京都精華大学 サテライトキャンパス kara-S	38
京都精華大学 明窓館 ギャラリーフロール	32
京都精華大学 友愛館アゴラホール	41
京都造形芸術大学	44
京都造形芸術大学 芸術館	57
京都大学総合博物館	60
京都伝統工芸館	40, 50
京都伝統産業ふれあい館	42
京都美術工芸大学	40, 50
京都府京都文化博物館	36, 58
京都文化交流コンベンションビューロー	42
清水三年坂美術館	31, 58
熊倉功夫	34
河野元昭	50
高麗美術館	55
小和田愛	30
近藤都代子	44

さ

坂井基樹	44
榊原吉郎	49
佐藤敬二	32, 44
澤田美恵子	34
塩瀬隆之	37, 44, 52
相国寺承天閣美術館	60
末兼俊彦	48
杉本節子	41
泉屋博古館	60
園部晋吾	39

た

大学コンソーシアム京都キャンパスプラザ京都	44
高橋英一	33, 34
建田良策	50
竹浪祐介	39
建畠哲	30
田中麻里	39
谷川俊太郎	34
檀ふみ	34
中信美術館	58
同志社大学アートビジネス実践	30

な

中川周士	41
並河靖之七宝記念館	55
ノートルダム学院小学校	37
野村美術館	56

は

華井明子	39
林田英樹	07, 52
福井麻純	49
ジャルランリ・プロソー	34
細見美術館	59

ま

松原龍一	28
宮本真治	50
村上 隆	50
村田理如	34
森野彰人	39

や

柳原正樹	04, 52
山中源兵衛	41

ら

楽美術館	56
------	----

21世紀鷹峯フォーラム in 京都 ガイドブック

監修・発行 | 「100年後に残る工芸のために」
普及啓発実行委員会

発行日 | 2015年11月20日

編集 | 坂井編集企画事務所

デザイン | 松田行正・日向麻梨子

地図 | 河合理佳

お問い合わせ

「100年後に残る工芸のために」普及啓発実行委員会

事務局担当: 椿野 京都国立近代美術館
〒606-8344 京都市左京区岡崎円勝寺町26-1
TEL: 075-761-4112 FAX: 075-771-5792
Mail: tsubakino@ma7.momak.go.jp

オールジャパン工芸連携 東京／京都／金沢実行委員会

事務局: 一般社団法人ザ・クリエイション・オブ・ジャパン
〒104-0061 東京都中央区銀座5-3-12 壱番館3階
TEL: 03-3573-3339 FAX: 03-3573-3315
Mail: info@thecreationofjapan.or.jp

<http://takagamine.jp>



「100年後に残る工芸のために」
普及啓発実行委員会

京都国立近代美術館
〒606-8344 京都市左京区岡崎円勝寺町26-1

無料